

12

2004年

組合広報

NO. 456

よろこばれ 期待され 魅力ある

東京都鍍金工業組合  
東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

<b>わたしの意見</b>	組合の維持発展について	<b>総財務委員長 平野普三雄</b>	1
<b>役員会委員会</b>	理事長日誌、大村理事長、経産大臣賞受賞		3
	東京都議会自民党鍍金工業振興議員連盟と初懇談会		4
	東京都議会自民党鍍金工業振興議員連盟研究会		6
	全鍍連第42回全国大会		10
	前大会決議事項の経過報告・第42回全国大会宣言		12
	全国めっき技術コンクール表彰		14
	ME T E C' 05 例年どおり来年5月開催へ		17
	ヴェトナムの街から—その1	<b>矢部賢(矢部技術事務所)</b>	18
<b>あなたの予定表</b>	1月の環研・協組集荷日程ほか		
	高等職業訓練校第36期訓練生募集		24
	訓練校1月授業案内		25
<b>ピックアップ</b>	ニッケル濃度を制御ほか		26
	十日会11月例会・忘年会		28
	野上榮一氏令夫人由子様のお別れ会		30
	訃報、(有)片野鍍金工業所3価クロメート勉強会		31
	(株)旭電化研究所 立川に新工場 日本フィルター新代表取締役		32
<b>支部通信</b>	城南支部(木村秀利氏都知事表彰受賞祝賀会)		33
	城東支部、城北支部、足立支部		
	都内中小企業の景況		40

## 組合の維持発展について



総財務委員会委員長 平野普三雄

総財務委員会と組合財政について述べさせていただきます。総財務委員会は本来、常任理事と支部長で委員会構成をしていますが、この構成は合同会と同じであり、また、理事会の構成メンバーであることから、現在、総財務三役会として、由田総財務担当副理事長、池田、小澤両副委員長、事務局と私とで関連事項の検討をしております。

総財務関連事項は、大きく総務と財務に分かれますが、それぞれ相関関係にあります。まず総務に関しては、日々発生する事柄、また、定期的事項については事務局が遅滞なく執り行っています。中長期的な観点から、定款、並びに諸規定の見直し等を諸先輩達と行って参りました。また(故)梅本副理事長のお骨折りにより出資証券の整理も済みました。

次に財務関係では毎年度の予算、決算の検討等を行っています。ここで財務上の問題点を指摘したいと思います。

ここ 10 年近く組合脱退事業所が毎年 25 社前後あり、出資金の払戻しに伴う出資金の減少とキャッシュフローの減少が大きな問題点となっています。それを補うためここ数年でも、平成 14 年度に 770 万円、今年度も約 560 万円の増資を行いました。しかし、今後とも脱退に歯止めがかからず過去 10 年間と同じような脱退組合員数があると、出資金の維持を如何様にすべきか、組合員全員で考えなければならない問題です。

また、今年度はめっきセンターの外壁補修工事を主体に約 3400 万円の多額の工事費用が掛かり、いままでのセンター修繕積立金 2050 万円を全額取り崩しても 1300 万円超の不足が生じてしまいます。しかも今後とも毎年度多少なりの修繕は欠かせないと思われ、毎年 500 万円近く出して頂いているセンター修繕賦課金も継続していかなければならないと思います。

組合の収入、支出の関係からみた時、ここ数年、支出の面では、事務局の給与、退職金制度等の見直しによる経費削減は進みました。今後とも経費の見直しは継続して行っていかなければなりません。

一方、収入面から見ますと、組合員数の減少は出資金の問題のみならず、組合財政の柱である賦課金収入、分析事業収入等の減少となり、収入の悪化を招いています。特に分析事業収入は過去 9 年間の平均値で毎年度約 100 万円づつ減少しているのが現状です。これら資金面から組合運営を如何にしていくべきか組合員全員で考える必要があるのではないのでしょうか。

---

今年度は環境プロジェクトの活躍により「ほう素、ふっ素等」の暫定排水基準の3年間の適用延長が認められ、また、参議院予算委員会では中川経済産業相の「日本産業にとってめっき業は重要な産業である」旨の発言があり、また9月には都議会本会議の一般質問の中で、三宅茂樹議員による我々めっき業界の意向に沿う土壌汚染対策について要請して頂く等、我々めっき業界の考え方が、国会議員、都議会議員の先生方を通じ、行政に反映されつつあります。

めっき業は、各種化学薬品、有機溶剤等を使用し、古くはシアン、銅、亜鉛、クロム等の各種排水基準が設定され、新たに土壌汚染対策が必要になり、これからも各種規制がますます厳しくなるであろうと思われます。めっき業の発展には環境問題との調整が避けて通れないことと思われます。

めっき業の発展と、行政との関係においては、今回のほう素、ふっ素等の暫定排水基準の延長についても、各事業所単位で運動することは不可能であり、この規制が延長されない場合、各事業所にかかるコストを含め、相当な負担増になっていたと思われます。組合活動がなければ、めっき業界の発展と各種規制をはじめとする行政との調整は困難と思われます。

そして組合を維持して行くには、今後とも、組合経費の常なる見直しは当然ですが、ある程度の組合員負担増も考えて頂かなければならないと思います。

## 大村理事長日誌



### 11月

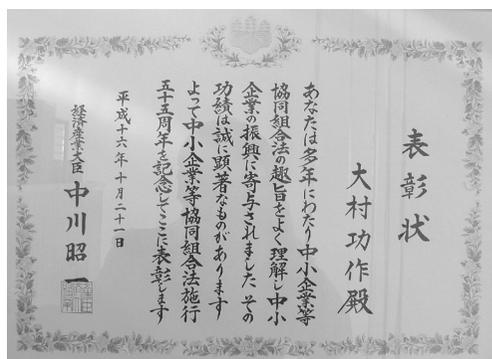
- 1日(月)工組事務局打合せ
- 2日(火)全鍍連常任理事会  
東京都環境局と打合せ  
城南連合支部壮年会
- 4日(木)正副理事長会、理事会

- 5日(金)健保組合、東京社会保険事務局  
と打合せ  
城南・品川支部合同環境月間講  
習会
- 9日(火)表団協セミナー
- 11日(木)ホームページ特別委員会
- 12日(金)東京労働懇談会
- 13日(土)城西支部ゴルフ会
- 14日(日)故梅本喜四郎氏一周忌
- 15日(月)城南支部役員会
- 16日(火)都議会自民党鍍金工業振興議員  
連盟と懇談会
- 17日(水)都中央会労働懇談会
- 19日(金)城東支部・産業ときめきフェア
- 24日(水)大田区自民党大会
- 25日(木)全鍍連常任理事会・理事会・全国  
大会
- 26日(金)木村秀利氏都知事賞受賞祝賀会
- 27日(土)品川支部家族懇親会
- 29日(月)玉沢徳一郎衆議員セミナー

## ～大村理事長 経産大臣賞受賞～

全国中小企業団体中央会並びに都道府県中小企業団体中央会は10月21日(木)午後1時から港区赤坂の東京全日空ホテル「プロミネンス」で中小企業等協同組合法施行55周年及び中小企業団体の組織に関する法律施行45周年記念式典を開催した。

式典には関係省庁から来賓多数が臨席され、席上、組合功労者に対する経済産業大臣賞などの表彰が行われた。組合法関係で組合関係功労者35名が表彰され、東京都鍍金工業組合の大村功作理事長が東京鍍金公害防止協同組合理事長として経済産業大臣表彰を受けた。



## 東京都議会自民党鍍金工業振興議員連盟 と初懇談会

東京都鍍金工業組合は、11月16日(火)午前11時から京王プラザホテルで新しく設立された東京都議会自由民主党鍍金工業振興議員連盟と初懇談会を開催した。

懇談会には振興議連の大西英男会長はじめ議連議員10氏、組合から大村功作理事長はじめ副理事長、各委員長など13氏が出席、はじめに青木治郎専務理事の司会で開会し、大村功作理事長は「このたび都議会自民党鍍金工業振興議員連盟として新たな組織でスタートして頂き厚くお礼申し上げます。鍍金議連は小杉代議士が都議会自民党幹事長時代に発足したと聞いており、長い歴史のある会である。このたび組織を一新してスタートして頂いたことは私ども組合としても大変うれしく期待している。去る9月29日に都議会において三宅先生がめっき業界の問題に関して質問して頂き、環境局長から答弁を頂いて大変有り難く思っている。議連の先生方にはめっき業界の

苦しい実情をご推察頂いてご支援をお願い申し上げます。めっき業は小規模で件数も少ないといわれるが、お得意先の多い加工業で、人間関係も広くそれなりの力を持っていると思うのでよろしくお願い申し上げます」と開会の挨拶をした。

振興議連の大西英男会長は「これまでもめっき業界が置かれている状況は様々な角度から大変厳しい状況にあることを議連の一員としてひしひしと感じていた。そうした中で新しい振興議連を立上げさせて頂き、議連としても時々の党執行部と一体となって活動していこうと政調会長に入っている。いま大村理事長から話があった組合員数の多い少ないの問題ではなく、めっき業はものづくり東京の先駆的な役割として今日の東京の発展を支えてきている。ましてめっき業を営んでいる方々は地域のコミュニティの中核としてご活躍を頂いており、もしめっき産業が東京からなくなるよ



うなことになるれば、ものづくり東京の滅亡にもつながりかねない。そういう意味で私たちは全力を上げていくことが都議会議員の使命だという思いで今回新しい組織を立ち上げさせて頂いた。組合長年の懸案であった施設整備についても、短年度での財政負担は難しいが、一定の年限の中でしっかりと東京都がお手伝いをすることで、何としても実現しなければいけないと思っている。私も政治家にとって一番大切なことはみなさんに耳触りの良いことを話すのではなく、みなさんが悩み苦しんでいることを1つ1つ行政の現場の中に生かして、みなさんの要望を実行実現していくことであると思う。いま選挙を前にして地域を歩いていると、背中に冷たいものが走る思いである。これはかつて地域を支えていたものづくり産業の人たちが元気をなくしつつある。かつて日本経済が成長路線を走っている時にはコミュニティの中心となり、町会長、ボランティアの会長として我々と一緒になって地域の発展のために頑張ってくれた。そういう方々が自分の明日のことで精一杯となり、東京、地域のことまで言っていられる場合じゃない、まして政治なんかとんでもない、お前たちは今まで何をしてきたんだという怒りがあることも私たちは肌で感じている。こうした現場の声、生の声を我々地方議員が永田町へしっかりと伝えその人たちを奮起させていかないといけないと思う。東京の地方議員が日本を変えるくらいの心意気で国会を動かしていきたいと思っている。それぞれの立場で党の機関を通じてみなさんの期待に応えられるように精一杯頑張っ参りたい」と挨拶した。

振興議連の三宅茂樹事務局長が出席議員を紹介した後、松原忠義幹事長が活動報告として「東京の工場数は平成5年から15年の10年間で72,000から49,000と2万以上減少としている。こうした深刻な事態

であり、大きな構造変革期にある。そういう中で東京都産学が一緒になってものづくり東京の支援に努力している。過日組合から予算要望を頂き、その中で施設の整備費の提示を頂いたが、現在の東京都の財政から一気に行うのは難しいが、4ヶ年計画で大西会長が東京都と折衝して来年度以降、組合の要望に沿った形で施設整備が実施されることがほぼ見通しがついてきた。環境省はほう素ふっ素等の暫定排水基準を3年間延長するとともに、その間の排水基準を評価すると発表した。この動きを踏まえて我が党は6月都議会で、3年後の本格的な排水規制に向けた都の対応について三宅議員が質問し、合わせて産業労働局に産業技術研究所が開発した新しい技術の実用化へ向けて取り組むという前向きな対応の約束を頂いた。大村理事長から話のあった土壌汚染問題も我が党して深く対応策を練っている。来年4月に新銀行東京が出来る。いままでの銀行とは違い、中小企業専門の銀行にしようという特徴を持った銀行作りをしていかないといけないと思うが、その中で特に技術力、人物、将来性を加味して、いままでの担保だけの融資政策でないものを作っていく考えである。カード時代に合わせてカードの導入、相談機能も強化するよう申し入れている。日本の産業構造が大きく変わってきている中で、しっかりとした産業政策のため自民党一丸となって頑張っていく決意である」などの報告を頂いた。

この後、めっき業界の抱える問題などについて懇談し、最後に姫野正弘副理事長は「公務ご多忙の中、めっき業界のために貴重な時間を割いて頂き厚くお礼申し上げる。先生方の話を伺い心強く思った。土壌汚染問題は我々の資産価値をゼロ以下にするような問題である。この厳しい環境の中で何とか生き残っていけるよう今後とも大西会長をはじめ議連の先生方にご指導ご支援をお願い申し上げます」と閉会の挨拶をした。

# 都議会自由民主党鍍金工業振興議員連盟研究会 －クエン酸ニッケルめっきの現状と課題－ ～大村理事長らが出席～

東京都議会自由民主党鍍金工業振興議員連盟(大西英男会長)は12月1日午前10時から都議会自民党総会室で、東京都立産業技術研究所が従来のほう酸を用いたニッケルめっきの代替技術として開発されたクエン酸ニッケルめっきの現状と課題などについて関係局長・部長を交えて研修会を行った。東京都鍍金工業組合から大村功作理事長をはじめ副理事長、専務理事が出席し業界が抱える問題等について説明した。

研究会は三宅茂樹事務局長の司会で始まり、大西会長は「東京の製造業は厳しい状況に置かれているが、東京の活力の源は製造業が厳しい状況を克服して元気になることであり、我々鍍金議連も陣容を新たに建て直して業界のお手伝いをさせて頂いている。産業技術研究所が環境負荷の少ないクエン酸ニッケルめっきを開発したが、例えば都側の横の連絡がどうなっているのか、クエン酸を使って排水処理した場合に環境局がどう対応するのかも

定かでない。一方、めっき業界は下請的な立場であり、長年のめっき方法を改めて果たしてユーザー側の信頼性が得られるのか分からない。行政の立場でフォローして頂く必要があるのではないか、本日は関係三局にお越し頂いて、業界の話を聞いて良い方向を見いだして行きたいという趣旨でこの会を持たせて頂いた。新しい研究成果が具体的に生かされ業界の発展に繋がるような方向性が見いだせれば有り難いと思う」と挨拶した。

松原忠義幹事長は「大西会長から話があったように、バブルがはじけて今日まで工業界を取り巻く環境は厳しいものがある。我々は色々な業界の方々と対応している中で、めっき業界から強い要望を頂き、真摯に受け止めて行政に反映していくことが私ども都議会の役目と存じている。高島議員、三宅議員が質問する一方、業界の方々と何度となく話し合い、クエン酸ニッケルめっきの現況を聞くとともに、関連の問題もあるので、産業労



働局、環境局、下水道局の3局に来て頂いてそれぞれの立場でお話をして頂いて、業界の方と意見交換することで前進したいと思っている」と開催趣旨を説明。

### 関係三局長説明

関谷産業労働局長は「めっき産業は情報家電、携帯電話等の先端分野で高精度、高品質が要求される時代になり、めっき産業は東京のものづくりの第一線で支える代表的な産業であると承知している。しかし一方でめっき作業工程で多くの化学物質を使用しており、排水対策等環境への配慮がさけて通れない課題となっている。この課題の克服へ向けて、産業労働局では産業技術研究所で環境への負荷が少ないクエン酸ニッケルめっきを開発した。この実用化に向けた取組みをぜひ実現して頂くことが私どもにとって大きな課題である。引き続き技術支援について一層力を入れていきたい」と説明。

平井環境局長は「めっき業界の事業者の方々には厳しい経済状況の中にあっても環境対策に対してご尽力を頂き感謝申し上げます。環境局としても法令による規制指導に止まることなく、事業者の視点を踏まえた上での環

境対策を進めることが重要であると認識している。今後とも関係各局と連絡を取り合いながら力を合わせて環境負荷の少ない技術開発と導入が円滑に進められるように私どもも努めていきたい」と説明。

二村下水道局長は「規制対象となったほう素、ふっ素に対して今後とも関係局と連携を取りながら業界の排水処理の取組みを支援して参りたい」と説明。

### 大村理事長挨拶

大村理事長は「30年前から鍍金議連が続いてきたが、新たに鍍金工業振興議連が10月5日に発足して頂いた。組織を一新して大西会長をはじめ先生方により一層ご協力を頂けるということで業界としても有り難く感謝している。近年環境との共生ということで環境問題が問われており、我々めっき業は中小零細企業の集団であり、環境負荷物質を多く使っていることでその対応に苦慮しているのが実情である。ただ前向きに一生懸命やっという気持ちであるが、まだ処理技術が確立されていないこともあり難しいところがある。我々の最重点課題は土壌汚染問題で先生方、各局にもお願いしている。いま一生懸



命勉強しているが、何しろ長年の汚染を急に法律が出来たからといって処理できるものではなく、それ相当の処理技術が開発されない限り難しいと思う。行政のご指導ご支援をお願い申し上げます」と挨拶した。

## 関係部長等説明

ここで3局長が退席し続いて3局担当部長から、産業技術研究所が開発したクエン酸ニッケルめっきについての現状と今後の方向性について説明を頂いた。

市原産業労働局商工部長は「ほう素、ふっ素の排水基準については水質汚濁防止法の改正により平成13年7月から新たに導入されたものである。その際一律排水基準を直ちに達成することが困難な業種、電気めっき業について3年間の暫定排水基準が適用された。平成16年7月に従来の70から50mg/lに暫定基準が強化されるとともに適用期間が3年間でされた。平成19年7月以降さらに厳しい一律基準が適用されることになる。この対策として産業技術研究所がほう素を使用しないクエン酸ニッケルめっきを開発した。平成16年度にはめっき業者の方々と共同開発研究を行い実用化に向けた実証データを積み重ねている。平成17年2月には技術普及を図るために実技を含めた講習会を予定している」と説明。

井上産業技術研究所所長は資料をもとに「従来のワット浴はほう酸溶液にニッケル溶液を入れて電気めっきをする。排水処理ではニッケルを沈降分離するが、ほう素が残りこの処理が難しいということである。平成10年くらいからこれに代わるめっきを検討して、クエン酸を使っためっきの開発を進めてきた。クエン酸は柑橘類にも入っており、環境規制にもかからない。ところが排水処理ではニッケル溶液がわずかに処理されないことが分かり現在共同研究で処理剤を加えることによってニッケルを沈殿させることができることを解明した。今後現場での実証実験を行う」などを説明。

福島環境局自然環境部長は「私どもの所管は河川に排出している事業所を対象に指導を

行っている。現在これらの事業所に対しては水質の把握に努めてそれに基づいて排水処理施設や作業工程の改善などの指導をしている。産業技術研究所が開発したクエン酸ニッケルめっきについては環境局として大いに期待をもっている。この技術確立のために支援を行っていききたい」と説明。

渡辺下水道局業務部長は「下水道局の所管で620件のめっき事業所があるが、各事業所のご努力、組合のご指導により下水排除基準の達成が年々向上している。偏に関係者のご努力のよるものと感謝している。今後の課題であるが、ほう素、ふっ素で、事業所排水の実態調査を行っている。現時点で排水排除基準50mg/lを超過している事業所はほう素が1事業所、ふっ素が16事業所で、一律排水基準になると、ほう素が22事業所、ふっ素が64事業所となっている。また、排除基準を超える恐れのある事業所への指導を行っているが、まだ安定的な処理技術が確立されていないので、作業工程の改善等を中心きめ細かく指導している。工程等の改善によって私どもは暫定基準を充分クリアできると考えている。さらにメーカーの技術、処理コストや処理方法などのデータを提供していきたい。産業技術研究所のクエン酸ニッケルめっきの実用化に協力していきたいと考えている」と説明。

## 質疑応答

以下質疑応答を行い、川上副理事長は「めっき業界はキレートによって発展した業界であるが、排水処理はキレートを削減しないと金属を分離できない。新しくクエン酸ニッケルを開発して頂き感謝している。ただほう素よりクエン酸ニッケルの方が健康には害はないのか心配である。また“海域を放流先としている公共下水道”に排除する場合は230mg/l、“河川その他の公共用水域を放流先としている公共下水道”に排除する場合は10mg/lで事業所の所在地によって海域は繁栄して内陸部が衰退するようでは困る。また、亜鉛の規制強化の話が出ているが、従来の5mg/lの基準を続けて頂きたい。河川や海域へ

放流する 50t 未満の工場は生活環境項目の重金属の規制がないことも考慮して検討して頂きたい。土壤汚染問題が一番大きな問題で、土壤を入れ替えるではなく、簡素化し迅速に処理できる方法を開発して頂きたい」と質問、そのほか「クエン酸ニッケルめっきのコスト、めっき性能はどうなっているのか」などの質問に対して次のような回答を頂いた。

クエン酸ニッケルが害にならないかという話であるが、クエン酸は果物に入っており害はないと思うが、詳しくは分からない。ニッケルは凝集剤で処理するが、わずかに残るものは処理剤を加えることにより沈殿が確認されている。

めっき性能は従来のワット浴と遜色ないと考えている。コストはほう酸溶液をクエン酸溶液と入れ替えるだけで殆ど差はない、新たな設備も要らないということである。ただわずかに残るニッケルを沈殿させるために処理剤が必要になる。東京湾は閉鎖性水域であるが過去に蓄積された分があり 230、河川は都心を流れて影響が大きいことで 10 ということを聞いている。

亜鉛については、私どもも影響が大きい問題と認識しており、国の動向、情報を早く入手して、業界の要望を聞いてみなさんに情報提供と、国への要望に努めていきたい。早めに対応したいと考えている。

土壤汚染対策については東京都もみなさんと同様に最低限の費用で必要十分な対策がとって頂けるように努めていきたい。状況によっては、単に表土を被覆するだけで跡地を利用できるとか、処理会社によって必要以上の対策とコストを提案する会社がないとも限らないので、その情報提供を行うことと、業者間の競争を促すことによって低コストで負担の少ない形で処理できる体制を整えて参りたい。

**大村理事長**は「実験と工場で作るのは違うということで産業技術研究所から2工場の協力要請があり、バレルを中心とした工場とラックを中心とした工場を提示した。工場実験が終了しないとすぐには使えない。予算も出て

いると聞いているので早急にやって頂きたい」と要望。

議員から「研究所の開発成果は認めるが、実際に工場を使って頂く過程の問題で、ユーザーがそんなめっきは認めないということでは普及出来ないので、めっき事業者のみなさんにユーザーとの交渉を委ねているだけでなく、産業政策として東京都がユーザーに対して説明、理解を求めることが必要なのではないか。また2工場の実証実験を進めるということだが、その費用負担は公的に支えていくべきだと思う」と質問があり、次のような回答を頂いた。

今年度の実用化へ向けた共同研究をもとに、実証実験等を実施していきたい。まず実用化へ向けた技術を完成させることが第一である。さらにクエン酸ニッケルめっきのデータを整備して、関係方面に情報提供していくことが大事である。めっき発注元への周知については東京都としては民間取引にからむ問題もあるが、事業者の取組みを都としても積極的に支援していく必要がある。クエン酸ニッケルめっきの技術情報を都内主要な工業団体等にどんどん情報提供する形で事業者の取組みを一緒になって支援していきたい。

**松原幹事長**は「この問題は、各局に跨がるもので改めて業界から要望を出して頂いてそれを3局でそれぞれ検討して頂いて煮つめていきたい」と説明。

最後に、

**大村理事長**は「我々のために貴重な時間を割いて検討して頂き感謝申し上げます。我々は小さい企業の集団であるが、みんなでやっついこうという団結力は強い。我々組合が指導出来るところは指導するので、行政のご支援をお願い申し上げます」と挨拶。

**新藤義彦副会長**は「率直な意見交換が出来たことと思うが、基本的に環境を良くすることは誰もが賛成であるが、具体的にどうするのか、意見交換を十分にするなかで、都側として横の連絡を取りながら業界の立場を考慮するなかで、より良い環境を作っていきたい」と閉会の挨拶があり、研究会を終了した。

## 全鍍連第 42 回全国大会 大会スローガン 「小さな芽を育てよう- cheers ! 変化への挑戦」採択

全国鍍金工業組合連合会(笹野不二夫会長)は、11月25日(木)午後2時から芝公園の機械振興会館で来賓、各組合代表者多数が出席して第42回全国大会を盛大に開催した。大会スローガンは昨年同様の基本テーマ「小さな芽を育てよう」をとしながらも、サブタイトルに「Cheers! 変化への挑戦」の決意を盛り込んだスローガンを採択し、業界を挙げて推進していくことにした。

大会は、笠間則文総務委員長の司会により、鈴木喜代壽副会長の開会の辞、国歌斉唱、業界関係物故者への黙とうのあと、主催者を代表して笹野会長が「今年は異常気象により台風23号では多くの方が水害に見舞われ、また新潟中越地震で大きな被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。さて、本年度、全鍍連でもいろんなことがあり、環境関係ではフッ素、ホウ素、チッ素の暫定基準や土壤汚染規制などが問題となった。これに対してみなさん方と協力しながら色々やっ

てきた結果、3年間の暫定延長が認められた。引き続きデータを集めるために今後2回の調査を実施し19年度も再び暫定基準が延長されるよう努力していきたい。

日頃は全鍍連に対し尽力頂いており、この意向に沿えるようやっているが、なかなか期待に沿えるようなことが出来ない。しかし、事務局と一丸となって少しでも皆さん方の役に立てるよう努力しているので認めて頂きたい。今一番の問題は景気だと思うが、皆さん肌で感じていると思うが、多少なりとも上向きの傾向にあるようだ。しかしながら、大企業は世界一の利益を上げながら、我々中小企業に回ってくるのは何時になるのかなあという気分である。皆さんももう少しの我慢と努力、優れた技術を持って頑張ってください。この全国大会でもみなさん十分に情報を得て頂くようお願い申し上げます」と挨拶した。

大会表彰に移り、はじめに特別功労賞が京都市産業技術研究所工業技術センターセンター長の篠原長政氏に授与された。篠原氏は



---

---

70年立命館大学大学院理工学研究科応用化学専攻修了。同年京都市工業試験場奉職、96年同試験場場長、03年京都市産業技術研究所工業技術センターに改組改称、センター長となり現在に至る。めっき技術に関しては数々の功績を上げているが、中でも、低濃度ほう酸浴から得られるニッケルめっき等、環境調和型のめっき技術を研究し、府内めっき事業所において試験し実用化されるなど研究、指導が多数ある。

続いて、長年にわたり組合運営に功労のあった組合役員32名及び、優秀な事務局専従者2名の表彰並びに環境整備優良事業所表彰(12社、東京組合該当者なし)を行った。受賞された組合功労役員並びに事務局専従者は次の通り(敬称略)。

<栃木組合>岩月毅(岩月鍍金工業(株))、伊藤京子(ひかり工業(株))、<群馬組合>久保昌弘((有)フタバ鍍金)、松下稔((株)松下)、<埼玉組合>鈴木毅(興栄工業クローム(株))、<神奈川組合>薄衣敏則((株)薄衣電解工業)、加藤裕康(相模鍍金(有))、鈴木郁男(シャトル工業(株))、<東京組合>小澤栄男((株)小澤鍍金工業)、池田敏則((株)進光舎鍍金)、藤田直人(藤田鍍金工業(株))、志田和陽((有)大森広尾鍍金工場)、吉川進((株)大崎金属)、篠根健一((株)篠根鍍金)、神谷博行(神谷電化工業(株))、<長野組合>伊藤直行((株)伊藤クローム)、<静岡組合>久慈鉄雄((有)マルサン)、山本順平((有)山本鍍金工業所)、<愛知組合>中島隆夫(八幡鍍金工業(株))、山内豊((株)山内メッキ)、松崎心悟((有)渡辺メッキ工業)、<京都組合>永峰健次((株)永峰鍍金工業所)、山田智彦((株)ヤマダエレホン金属)、<大阪組合>松本常雄(松本鍍金(株))、近藤照雄((株)近藤技研工業)、古谷弘明(古谷鍍金工業(株))、家長孝至(松下電鍍工業(株))、森脇隆(森脇鍍金工業(株))、<四国組合>大捕登(大捕産業(株))、<九州組合>中島清((有)中島鍍金工業)、野田茂義(九州硬化工業

(株))、平井正秋(平井鍍金工業(株))

組合事務局優秀専従者表彰(2名)武井光枝(埼玉組合)、守谷凱子(京都組合)

続いて全国めっき技術コンクール表彰では、研磨-装飾クロムめっき部門で東京組合の八幡鍍金工業(株)八幡義一氏が厚生労働大臣賞を受賞したのをはじめ、別掲の通り入賞者の表彰が行われた。

「卓越技能者表彰」では、山口組合の中国電化工業(株)取締役技術部長の八木英紀氏に、卓越した技能者として全鍍連会長より表彰された。

笹野会長が議長に就いて大会議事に入った。まず前全国大会の決議事項の経過を由田猛近代化推進委員長が報告、布袋屋皓造専務理事が今年開催された5ブロック会議の経過報告を行った。本大会宣言案(スローガン)「小さな芽を育てよう-Cheers!変化への挑戦」の意見発表(別掲)を清川忠技術委員長が行い、満場一致でこれを採択した。この決議事項は各工業組合、関係官庁、関係団体の協力を仰ぎながら業界の総力を挙げて推進していくことにした。最後に常任顧問の草間英一、島村周作、石井博、渡邊正勝の4氏による万歳三唱、原互副会長の閉会の辞で大会を終了した。

4時から懇親パーティに入り、大村功作副会長の開宴の挨拶、笹野会長の挨拶、来賓として経済産業省製造産業局非鉄金属課中山亨課長、全国中小企業団体中央会橋本一美企画部長、日本表面処理機材工業会川島利夫会長から挨拶を頂いた。ここで、秋の褒章で、全鍍連理事、東京組合副理事長の姫野正弘氏が永年にわたるめっき業界での功績により黄綬褒章を受章、また、山口組合・中国電化工業(株)八木英紀氏並びに京都組合・高木金属(株)高木正光氏が、現代の名工として本日午前、厚生労働大臣より表彰されたことが披露され、盛大な祝福の拍手がおくられた。経済産業省製造産業局非鉄金属課谷聖尋係長の乾杯の発声で懇親会に入った。

---

---

## 第 41 回全国大会決議事項の経過報告

平成 15 年 11 月に開催された第 41 回全国大会では「小さな芽を育てよう—小さな企業のイノベーション—」を大会スローガンとして採択しました。本スローガンに関する実施経過は次のとおりです。

昨年の中小企業の業況は、かつてない厳しい状況に追い込まれていましたが、秋頃からは弱含み、または横ばいとなってきました。今年になり、製造業全規模の水準は、景気の谷であった 98 年よりも回復してきているものの、景気が回復したという実感はわかず、大企業と中小企業の格差、さらには業界事業間格差がさらに拡大しているのが現状であります。これは、大手メーカーの海外生産移管により、国内の仕事量が減少している事にあわせて、多品種少量による需要変動が激しくなり、量産ものは大企業、多品種少量ものは中小企業という分業を形成せざるをえない状況へと転換している現れであると思います。

このような環境変化の中でいかに企業経営を行うかは、高付加価値の製品開発や製品のコストダウンを実施し、産官学連携による知識の吸収や新しい技術を確立し、多品種少量分野で一定規模にとどまりつづけるのではなく、自社の小さな芽を大きく育て、新商品開発等を通じて成長を実現しなければなりません。また、パートタイムの労働者が増え、製造ラインへの人材派遣が解禁されるなど就業形態の多様化が進んでおり、中小製造業の人材育成・活用に変化が求められております。こうした、独自技術の研鑽に力を注ぐ一方で、職人やベテラン社員へのコア業務の一極集中を変えなければ、経営として成り立っていないという時代を迎えているのが現状です。

こうした状況下、全銕連では情報提供の強化に努めてまいりました。“元気な企業”に共通するのは情報収集の高さにあるからです。単独または産・官・学による共同で研究開発に取り組んでいる企業に対し、全銕連は、各工業組合に補助金情報や政府系金融機関の低利融資の制度紹介をはじめ、問い合わせや相談があった企業に対しては、電子メールなどでデーターを交換しつつ、採択の可能性を高めるための書類の書式や提出の方法など具体的なアドバイスを行ってきました。さらに、ホームページによる全銕連の活動状況及び税制、融資、助成金等の中小企業施策、土壌汚染、P R T R 等の環境問題、その他折々の重要な情報については、インターネットを通じて一般への周知を図るとともに、更新を定期的に行い、最新情報の提供に努めております。また、情報の正確性や情報格差の是正を図るため、機関誌「全銕連」の編集体制や内容等を全面的に改めるとともに、組合員の情報収集のアンテナを拡大するため、これからのめっき技術や連携等の鍵を握る産学の先生方及び組合理事長方の素顔をインタビュー記事として紹介してまいりました。

このように、めっき事業所が時代の主役であることに応え、顧客ニーズや顧客の多様化に対応するためには、今後とも全銕連がより有益な情報を収集し、正確に各組合員に伝達する手法を確立することが求められております。

従って、変化の時代を先取りし、業界の情報伝達をさらに速く、緻密にするとともに、小さな芽で「再生」を図る企業と人材育成を図り、他方、一丸となって環境保全を推進し、経営基盤強化と経営革新を図り、元気のある企業を育てて行くことを目指します。

---

---

## 第 42 回全国大会宣言(スローガン)

### 「小さな芽を育てよう」 Cheers!変化への挑戦

最近の日銀短観や政府系金融機関、そして新聞報道等で、大企業を中心とした景気の回復傾向は、中小企業まで及ぶようになってきたと報じられている。

しかしながら、実感が乏しいのはなぜか?

勝ち組・負け組とよく聞かれるが、既にご承知の通り、地域間・事業所間格差という玩実直面しているからである。

この要因を考えると、第1の理由として、単なる巨大な市場を占める製品を受注するだけでは経営が困難となっていることが考えられる。

小さな市場の商品を数多く創出するような産業に乗じて、新需要を開拓していくことで、我々めっき企業が主役となり、産学官、異業種などお互いに連携することでその可能性は広がっていく。

第2に、自社の持続的発展を促すチャンスとして捉えられているかどうかである。例えば、守りの姿勢ではなく攻めの姿勢を経営戦略として組み入れ、IT等を駆使して、情報をうまく活用しているケースが考えられる。

さらに、従業員、地域社会、NPOなど、企業を取りまく社会の目や価値観などの変化に伴い、経営手法も多様化している。

今年のプロ野球で日本一になった、西武ライオンズの新監督、伊東勤氏は、開幕前に掲げた2004年のスローガンは「挑戦 はじまる。」であった。開幕前、レギュラー放出など戦力が不足している中、今期、ショートストッパーに無名の選手を抜擢し、シーズンを通してレギュラーに定着させるなど、若い力で新たなスタートを切った。

このことを、製造業に置き換えると、商品の市場規模が小さくなればなるほど、開発スタッフなどの“人財”の登用が重要な鍵となる。

これをさらに置き換えると、めっき業の歴史は、新素材への転換と克服の歴史でもある。

こうした“変化に挑戦”するためには、自助努力も必要となってきた。自助努力する企業に対して、行政も積極的に支援策を行う姿勢をより明確に打ち出している。こうした自助努力の源は、やはりそこに働く“人”であり、人をいかに大切にしていくか、これが中小企業の本来的課題である。

これからは中小企業が大企業にかわって、需要喚起等の役割を負っていく。つまり、我々めっき産業があらゆる製造業の主役なのである。

ここにしか存在しない新たな技術を呼び寄せるよう3C、<我々が変化(change)に挑戦(challenge)し、みな、元気(Cheers)!>になろうではないか。

# 全国めっき技術コンクール表彰(188件)

## 厚生労働大臣賞

- 【研磨一装飾クロムめっき部門】  
八幡鍍金工業(株) 八幡義一 東京
- 【装飾クロムめっき部門】  
(株)九州電化 山田登三雄 九州
- 【亜鉛めっき部門】  
鈴木鍍金工業(株) 鈴木泰造 愛知

## 厚生労働省職業能力開発局長賞

- 【研磨一装飾クロムめっき部門】  
清川メッキ工業(株)A チーム 福井
- 【装飾クロムめっき部門】  
(株)サーテックカリヤ 二村博之 愛知
- 【亜鉛めっき部門】  
明光工業(株) 浦郷博巳 愛知

## 中央職業能力開発協会会長賞

- 【研磨一装飾クロムめっき部門】  
清川メッキ工業(株)B チーム 福井
- (株)エコー 森本 宏 大阪
- 【装飾クロムめっき部門】  
宇都宮タマル工業(株) 福井昌弘 栃木
- (有)トヨタ電鍍 豊田金造 東京
- 【亜鉛めっき部門】  
白金鍍金工業(株) 中西輝明 愛知
- 清川メッキ工業(株) C チーム 福井

## 日刊工業新聞社賞

- 【研磨一装飾クロムめっき部門】  
白金鍍金工業(株) 笹野修弘 愛知
- 明光工業(株) 太田 正 愛知
- 【装飾クロムめっき部門】  
明光工業(株) 浅野政義 愛知
- 清川メッキ工業(株)A チーム 福井
- 【亜鉛めっき部門】  
カクホン電機工業(株) 濱 佳治 長野
- (株)サーテックカリヤ 竹内洋二 愛知



(厚生労働大臣賞受賞の八幡鍍金工業(株))

## 全国鍍金工業組合連合会会長賞金賞

- 【研磨一装飾クロムめっき部門】  
(株)光 陽 群馬
- (株)ユニゾーン 高場義夫 富山
- 清川メッキ工業(株) 製造5課 福井
- (有)武田鍍金工業所 四国
- 【装飾クロムめっき部門】  
(株)東伸化工 中田充彦 東京
- 白金鍍金工業(株) 笹野恭史 愛知
- (株)大和電化工業所 平藪茂樹 愛知
- 【亜鉛めっき部門】  
(有)大村鍍金工業所 佐藤一徳 東京
- (株)歛鍍金 佐野 浩 東京
- (株)さくら鍍金 瀬戸エドゥアド 東京
- (株)三和鍍金 河崎正彦 東京
- (株)篠根鍍金 篠根和也 東京
- (株)タイホー 手塚紀親 東京
- (株)生駒 篠原篤史 大阪
- オーエム産業(株) 須々木伸介 大阪
- 佐和鍍金工業(株) 新家 勇 大阪
- 三和鍍金工業(株) 黒田信夫 大阪
- (株)永田商店 連佛涼至 大阪
- (株)ナクロ 岩田晋弥 大阪
- 全国鍍金工業組合連合会会長賞銀賞  
【研磨一装飾クロムめっき部門】  
スズキハイテック(株) 東北

(株)吉崎メッキ化工所 住谷雅宏	東京	清水鍍研材(株) 善田晃範	大阪
(株)太洋工作所 日野義明	大阪	大研化學工業(株) 辻本智昭	大阪
(株)太洋工作所化成成品事業部 前川大輔	大阪	(有)大仙鍍金工業所 北田雅己	大阪
【裝飾クロムめっき部門】		塚本鍍金工業(株) 山本敏之	大阪
宇都宮タマル工業(株) 長嶋紀彰	栃木	(株)友電舎 内海将隆	大阪
明盛鍍金工業(株) 高倉利守	東京	(株)野村鍍金 渡邊輝正	大阪
清川メッキ工業(株)製造5課	福井	(株)ムラタ 光宗隆裕	大阪
【亜鉛めっき部門】		(株)モリクロ 山田正剛	大阪
(株)協和 青木太志	東京	(株)ユニゾーン 畔田重宏	大阪
(有)鈴木メッキ工業所 鈴木秀平	東京	国重メッキ工業(株)	岡山
新日東電化協業組合 佐藤 一	東京	石川金属工業(株)上村英夫 伊藤 勉	九州
常木鍍金工業(株) 竹内 守	東京	石川金属工業(株)平原誠二 藤田親悟	九州
(株)ヒキフネ 井上秀一	東京	【裝飾クロムめっき部門】	
山田鍍金工業(株) 益子晃一	東京	スズキハイテック(株)	東北
(株)山晴 今泉大介	東京	(株)光 陽	群馬
オーエム産業(株) 佐藤 彰	大阪	ネオプレテックス(株)	群馬
三徳薬品(株) 川崎寛史	大阪	(有)石井鍍金商会 石井徹夫	東京
(株)土井鍍金 服部 均	大阪	(有)大和田鍍金工業所 大和田昌宏	東京
(株)モリクロ 荒木尚樹	大阪	八幡鍍金工業(株) 八幡順一	東京
森脇鍍金工業(株) 山田雅博	大阪	(株)吉崎メッキ化工所 窪田匡孝	東京
		タカノ(株)伊那工場製造課 飯島久徳	長野
<b>全国鍍金工業組合連合会会長賞銅賞</b>		(資)清水鍍金工業所	愛知
【研磨一裝飾クロムめっき部門】		太陽電化工業(株) 伊藤 豪	愛知
ネオプレテックス(株)	群馬	(有)竹田鍍金工業	愛知
平和工業(株) 福島里志	東京	(株)豊田電研 森 洋平	愛知
平和工業(株) 美坂貴史	東京	(株)二村研磨工業所	愛知
サン工業(株) 河合陽賢	長野	(株)ユニゾーン 高木優行	富山
神谷理研(株) 請井慎也	静岡	清川メッキ工業(株)製造5課	福井
神谷理研(株) 高田和裕	静岡	(株)エコー	大阪
神谷理研(株) 福田俊一郎	静岡	高知精工メッキ(株)	四国
(株)テックカリヤ製造5グループ 奥野雅章	愛知	(有)武田鍍金工業所 高岡日出男	四国
(株)豊田電研 森 洋平	愛知	石川金属工業(株) 沖西成人	九州
(株)二村研磨工業所	愛知	【亜鉛めっき部門】	
旭鍍金工業(株) 藤瀬貴久	大阪	スズキハイテック(株)	東北
アルファメック(株) 木村昌樹	大阪	宇都宮タマル工業(株) 長嶋紀彰	栃木
(株)生駒 清水利浩	大阪	宇都宮タマル工業(株) 山本勝宏	栃木
上村工業(株) 藤本泰二	大阪	(有)下妻電化工業所	茨城
(株)遠山 遠山 俊	大阪	溝口鍍金(株) 笹本 健	茨城
国光鍍金工業(株) 小川耕平	大阪	(株)フジオカ 勝又正博	東京
(株)三和硬質メッキ工業所 杉本智則	大阪	(株)フジオカ 勝又正己	東京

(株)吉崎メッキ化工所 森田秀一	東京	(株)山田 鈴木重男	静岡
アイテック(株) 笠原秀之	東京	(株)山田 古橋貴洋	静岡
(株)朝日クローム工業所 鈴木敦志	東京	伊藤工業(株) 松田勝彦	愛知
(有)池田鍍金工業所 池田敏志	東京	(株)エポックオチアイ	愛知
(有)梅田製作所 渋谷秀明	東京	(資)寿鍍金工業所	愛知
エアアイ・マイクロテ(株) 浅見行男	東京	(株)テックカリヤ製造2グループ 永田武治	愛知
(有)上原メッキ工業 長沼新伍	東京	三研工業(株)安城工場 天野孝治	愛知
(株)大宮鍍金工業 黒須慎吾	東京	三研工業(株)名古屋工場A チーム	愛知
(株)甲斐野テックス 石井幸信	東京	三研工業(株)名古屋工場B チーム	愛知
(株)カワイ化工 大塚雅充	東京	(株)ダイワエクセル豊橋製造部	愛知
(有)カブデンダストリー 弓木田望	東京	名古屋メッキ工業(株) 大津秀貴	愛知
関東電化(有) 田中 寛	東京	明光工業(株) 椿野貴敏	愛知
(株)協和 細野真一	東京	(株)山内メッキ 山内教義	愛知
(有)協和鍍金工場 海老原健	東京	三光鍍金工業(株)	富山
(有)櫻井 桜井裕行	東京	(株)ユニゾーン 犬嶋 昇	富山
(株)さくら鍍金 清村和人	東京	清川メッキ工業(株)製造5課	福井
三恵技研工業(株)赤羽工場 濱口雅司	東京	清川メッキ工業(株)製造5課	福井
三友電子工業(株) 市川祐司	東京	(株)太洋工作所 日野義明	大阪
三友電子工業(株) 羽石和行	東京	(有)三津屋電化工業所 濱田 茂	大阪
(株)真工社 渡辺孝雄	東京	(株)朝日硬質鍍金工業所 木村隆秀	大阪
(株)ソーワ・テクノ 齋藤 大	東京	(株)金属化工技術研究所大阪営業所 山崎猛臣	大阪
大同工業(株) 上原与弘	東京	(株)サトーセン特化技術部 谷村英一	大阪
大同工業(株) 田中 康	東京	(株)佐野クローム鍍金工業所 松田和朗	大阪
(株)タイホー 西野利明	東京	日本表面化学(株) 村井伴了	大阪
大和金属工業(株) 宮田敏行	東京	オーエム産業(株)技術課チーム	岡山
常木鍍金工業(株) 小藺江保徳	東京	オーエム産業(株)めつき1課亜鉛めつきチーム	岡山
(株)長沢製作所 小坂英和	東京	中備メッキ工業(株)	岡山
仁科工業(株) 米谷雄一	東京	(有)チューメックス定金 小林チーム	岡山
ニシハラ理工(株) 岡部和洋	東京	(株)アサヒテクノ 阿部 等	四国
(株)ヒキフネ 小林孝明	東京	高知精工メッキ(株)	四国
(株)ヒキフネ 安岡勝弘	東京	(有)武田鍍金工業所	四国
(株)フジクロム社 藤田大雄	東京	石川金属工業(株) 安東博貴	九州
双葉メッキ工業(株) 清水 悟	東京	石川金属工業(株) 高橋 渡	九州
平和工業(株) 森永英明	東京	緒方工業(株) 沖村 訓	九州
(株)三ツ矢 梅戸博英	東京	緒方工業(株) 藤崎敏幸	九州
(株)三ツ矢 保科秀樹	東京	緒方工業(株) 前田一明	九州
(株)吉崎メッキ化工所 多田繁雄	東京	(株)九州電化 山田登三雄	九州
(株)渡辺鍍金工場 渡辺猛宏	東京		
カクホン電機工業(株) 菅原龍一	長野		
サン工業(株) 白石明子	長野		

註掲載は組合順(北→南)、同組合の場合は申込順。組合標記にて、東京、大阪はそれぞれの訓練校生を含む。

# METEC'05、例年どおり来年5月開催へ 鍍材協 出展料値下げなど新機軸打ち出す

日本鍍金材料協同組合(略称:鍍材協 間宮勝理事長)は、さきに METECC'05 表面処理機材総合展の同組合単独での開催を発表したが、改めて 11 月 22 日、展示会の具体的な内容を発表した。

表面処理業界恒例の METECC'05 表面処理機材総合展が来年 5 月 26 日(木)から 28 日(土)の 3 日間、東京・大田区平和島の東京流通センターで開催される。

同総合展は、METECC'05 から日本鍍金材料協同組合単独で開催されることから、リニューアルしてコンセプトを「“顔の見える取引”と情報交換・交流の場としての展示会」、「集客に最大の努力と工夫をする展示会」、「お客様が参観して喜んでいただける展示会」として、表面処理関連機材を一堂に集め展示し、需要先である加工業者並びにその発注先であるメーカーとともに交流と商談の場として開催したいとの意向を打ち出し、PR活動を開始した。

METECC 実行委員会は新たなスタートを切るにあたり、本展示会の成功には多くの出展者並びに来場者の賛同を得たいとしており、今回特に、出展者には経費の軽減を最大限に考慮し出展料の大幅値下げや出展の簡便化を図るための安価なパッケージブース(小間装飾)の採用など、主に経費の面で新しい試みを行っている。

これまでの小間スペースは、A・B・C タイプの 3 種類あったが、今回はそれを廃止し、新たに間口 2,970mm×奥行 2,970 mm×高さ 2,700 mm の小間スペースを設定し一本化する。これは、METECC'04 までの A タイプ(間口 2,700mm×奥行 2,700 mm×高さ 2,700 mm)より大きく、逆に出展料は 231,000 円(税込) / 1 小間と安くなっている(従来の A タイプ出展料は 262,500 円(税込) / 同)。また、小間装飾についても、レンタル式のパッケージブース(ブース工事一式 94,500 円(税込) / 1 小間)を用意し、出展各社の選択肢を増やすとともに経費節減に配慮をしている。また、新たな試みとして、来場者と出展者のための「交流の場」としての会場を設け、そこには、応接セット・商談机・椅子等を設置し、無料の飲み物を提供するなど、来場者と出展者が自由に商談や休憩ができるスペースを設営したいとしている。さらに、来場者に対しては、恒例の「ラッキープレゼントコーナー」を充実して、主催者から“デジタルカメラ”など豪華景品を用意し、毎日抽選により進呈するほか、出展者並びに鍍材協組合員の提供による景品も多数取り揃える予定で、来場者へのサービスに努めたいとしている。その他、同総合展の予定併催行事として、注目される技術、製品などをピックアップして展示する「特別展示コーナー」、表面処理加工業者による独自の技術・製品を展示する「加工品コーナー」、出展メーカーによる「技術講演会」、来場者から表面処理技術・製品などに関する疑問・質問などの相談を受ける「技術・製品相談コーナー」、「書籍展示販売コーナー」などを企画している。

現在、出展申し込みを受け付けており、締切日は平成 17 年 2 月 15 日(火)、出展申し込み・問い合わせは下記にとしている。

申込・問合せ先 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 2-13-8 日本鍍金材料協同組合内  
METECC 実行委員会 事務局 TEL.03-3666-2416 FAX.03-3666-3114

# 「ヴェトナムの街から」その1

(木村広報委員長のヴェトナム企業調査に同行して)

矢部賢(矢部技術事務所)

今日も、イラクでは幾人かの人が倒れ、傷ついて行く。アメリカでは共和党の大統領が辛勝したが、スミソニアン博物館は、イラク戦の記念品を展示するか否かを問われている(11.11.NHK)。ヴェトナム戦争が終わったのは1975年4月、もう30年の彼方である。今も闘いは泥沼化し、アメリカは、世界から、真っ二つに割れた身内からまで非難されている。あの時は撤兵したが、今度は？東西の代理戦、人種対立、宗教問題、石油争奪、元凶は誰か？共産ヴェトナムは如何に凌ぎ、何処へ行くかを見れば、イラクの行方も少しは読めるだろう。

部品業界の昨今のヴェトナム指向はますます激しい。製造業の植民地化に湧くタイよりも、もっと近いところで、日本の88%という南北1700kmの細い国土に、8千万を超える同じルーツの仲間がいる。

宗主国フランスを追い出し、世界にただ1人当代アメリカに勝った国である。是非訪ねたいと、願っていた。

定刻5時55分、この季節の成田はもう暗い。ホー・チー・ミンまで2706マイル(約4500km)、飛行時間約6時間、都鳥、沖縄、台湾をかすめ、南シナ海を降りて行く。時差2時間なら現地には今夜中に着くだろう。搭乗機はボーイング777型の日航機であるがヴェトナム航空との共同運行便と聞いた。最近は1日数便もあるそうで、エコノミーでも自由に席が換われる程空いていた。

「スパイダーマン」1本と1889年、トランシルベニアのドラキュラやフランケンシュタインを題材にした「ヴァン・ヘルシング」を観ながらフランケン博士の悪弟子イゴールを思い出す間に、旧称サイゴン・今はホー・チー・ミン市のタン



(現地企業の訪問)

ソニヤット空港上空に達した。

一旦着陸姿勢に入ったボーイングが滑走路まで降りながら、再び全速で上昇を始めた。スコールの激しさに止むなく反転、街の灯を下に見ながら大きく旋回し、雨の小止みを待ったのである。

空港を出ると長袖に上着ではさすがに熱い。先ず両替をして、小銭のゼロの数を確かめた。1万円が133万4千ドン、1ドンは7厘5毛、渡された少額紙幣1万ドンが75円ということになる。

空港ビルは長さ約200m、昨今の東アジアで、大きいとは言えない。既に、24ヶ国の協力によって新空港ビルを建設中と聞いたが、資金の40%は日本のODA(海外開発協力資金)によって賄われる。日系企業のためと言われながら、こんな処にも血税が使われるのである。

3泊4日のご厄介になるのは、かつて南ベトナム大統領官邸であった昔の王宮跡から僅か南、綺麗な可愛いホテルである。机に置かれた日本語ニュース、テレビのチャンネルを回し、日本人ビジネスマンの溜まり場だと知った。

ボーイに払ったチップがしわくちやの1万ドン(75円)、翌朝の枕銭も同じく1万、タクシーの初乗りが小型で1万2千ドン(90円)である。空港から街まで乗っても、30分で20万ドン、1500円あれば充分だから、ガソリン1リットル7千ドン(約51円)から見ても安い。

6時過ぎの食堂は、新聞を片手に乾物とみそ汁で和食をかき込む作業服の姿が多い。ビジネスホテルの朝である。

案内頂いたK工業O役員に伴われ、迎えのパジェロで、ホー市を西にタントゥアン工業団地(輸出加工区)に向かう。K・ヴェトナムのU総支配(副社長)も既に車中に在った。

フランス時代から続くシェスタ(昼寝)の名残か？ホー市の朝は早い、乗用車が多くなったとは言え、通勤バイクの洪水の中を、クラクションの銃声を浴びせながら、泳ぐように駆け抜ける。ラッシュに重なれば大変なことになるだろう。

近代化が進んでいる割には30階前後の中層ビルがやっと建ち始め、超高層ビルはまだない。国と台湾の共同出資で造成されたというタントゥアンの開発区は300ヘクタール(万平米)、ジューキ、日立ハイテク、キャノン、日本電装、富士通、ホンダ、コパル、トウソクと大手日系企業が続く。ホー市にエアバス、ボーイングなど航空機産業まで進出しているとは意外であった。

訪問のテーマである「めっき内製工場」を新設されたK工業は、十年前の1994年、投資環境視察ミッションに参加の結果、当初の方針であったフィリピンからヴェトナムに方向転換されたという。

K工業の本体は、電機・電子機器、各種自動車電装部品、製品としては産業機器、計測器など幅の広い中堅メーカーであり、K・ヴェトナムはこれを補完し、金型からプレス、組立までを一貫生産する部品工場である。

モーターコア、ローターホルダーなどの精密プレス、独特のプラスチック縦型成型、タッピング部品、各種端子、マグネットコイルなど製品は多彩で巻線や組立まで行われ、3次元測定などの厳密な管理が特徴とされる。製品はヴェトナム全土の日系企業への供給が過半数、日本国内向け30%、残りはタイなど近隣アジア諸国の米系企業を得意先にし、最近では自動車関係が41%程度まで増えている。創業は1955年、初期の5千㎡の工

場は、既に一部をめっき工場に改装済みで、将来は広く日系企業へのサービスも図ろうという。02年、1万㎡の新工場に機械・組立・倉庫等を集中、従業員数350、年商800万米<sup>ドル</sup>を超える。

道すがら、車中で挨拶を交わしたU副社長に始業前の寸刻を割いて頂き、ヴェトナムの現状と同社の対応を伺った。U氏は長年M化学にあつて海外経験も豊富で、2年前から現地総支配の重責にあり、語られる視野は広く深い。

ヴェトナムのGDPは388億<sup>ドル</sup>、8067万の国民所得にすれば、まだ481<sup>ドル</sup>に過ぎず、農業24%、工業37%、サービス業39%の配分と言われる。しかし、識字率は男97、女93%とされ、高校まで義務教育、これを廃止したと伝えられるカンボジアとは大きな違いである。平均寿命男66.9、女71.8才の中で、当社従業員の平均年齢は24.5才、42才の内地工場に比べ、雰囲気はまるで違うようである。

延べ7500㎡の工場ビルは、350名3直交替の大部分を女工さんが占めている。手早く器用に働くヴェトナムの女性は細身で小柄で、白衣の制服を着た女学生のように見えた。社会主義の国であれば言うまでもなく男女同権、週48時間勤務で、月給70<sup>ドル</sup>(7~8千円)程度であるが、リーダーとなれば130<sup>ドル</sup>の人もある。プレス、タッピング、モールド、コイルなど虫眼鏡サイズのものまで、大小様々月産60万個の部品が造られ、組み立てられて行く。

先述のO役員は此処にデスクを置き、毎月訪れては本社との連絡に当たって居られるが、U副社長を含め、常駐の日本人スタッフは僅か2名、工場は現地化に徹している。例えば99年にIS09002

を現地機関BVQIによって、内地工場より先に取得、02年IS014001もこれに続き、03年SA8000、04年にはQS9000及びTS16949の認証も取得し、自動車生産4万2千台というモータリゼーションへの備えも怠りない。BVQIによって内地工場の審査も可能にするなどの展開もユニークである。昨今、特に海外進出企業に厳しいCSR(企業の社会的責任)のリスクには、ヒューレットパカードやハネウェル社との提携を強め、01年アメリカ商工会議所へ参加するなど、国際的な対応も進んでいる。

K・ヴェトナムに特筆されるのは、400万<sup>ドル</sup>を投じ、ロボットコンテストでアジア優勝したホーチミン工科大学と交わしたインターンシップである。実習設備の古くなった大学と金型のプロジェクトを組み、内地で40日を要する型を21日で日系大手に納めた当社の実績を更に16日に縮めるべく、基礎訓練やCAD/CAMを駆使しての実習と共同研究に余念がない。将来はヴェトナムを金型王国に育てたいと、プロジェクト名はスペルの頭文字を連ね「KINGDOM」にしたそうである。

また、改善活動に秀でた従業員数人を、年毎にバンコックへ報奨旅行に送る制度がある。誇り高いヴェトナム人が最近の好調な経済活動に浮かれ、東南アジア随一と思ひ込む自負心を醒ますためと言われた。彼等が農業国と思っていたタイで、林立する高層ビル、メインストリートを貫く高架のモノレール、最近では地下鉄まで備え、路上には新車のタクシーが洪水のように走る活況を見ると、工場に戻って同僚に「頑張らなくては!」と奮起を促すことになる。やっと緒に着いた「バイクのヘルメット装着」を通勤者には義

務化するなどと併せて、従業員と新興ヴェトナムへの心遣いなのだろうか？

道路を隔てた僅かな距離に、めっき設備を納めた旧工場がある。全面をプラスチック・ライニングで新装したピカピカの床の側面に、15 寸程度の銅、ニッケル、すずのバレル自動機が 1 ライン設置されている。日本から送られたステンレス架台の立派な設備であって、ヴェトナムの若い技術員によって操業を始めたばかりである。がらんとした実験室には分析器材や測定機・試験機も並び始めていた。シアンを含む薬品庫は二重のロックで管理にも怠りはない。

現場の水道水はやや濁りがあって飲用には不適、前処理からめっきラインの全てを  $0.4\mu\text{S}$  程度のイオン交換水で賄っている。ただし、原水の電導度(導電率) $70\mu\text{S}$ 、東京の  $170\sim 200\mu\text{S}$  に比べ意外に低い。要するに濁りはあっても溶性塩類が少ない。木曾・長良・揖斐の 3 河川の水量に恵まれた名古屋の市水と匹敵する。後で訪れることになるが、遠くチベット高原に発して山峡から延々と 4 千軒、澄むことのない大河メコンの恵みであろう。

将来に備え、日量 100 立米は処理できる F 社製の排水処理場が立派である。シアン捕捉の完璧を期した塩化鉄の処理方式が採られている。純水精製から、めっきラインを含めて排水処理施設の老舗 F 社の管理・製作によることも伺った。濁りだけが問題の原水、現状の作業量と排水濃度には過剰な処理施設と除害薬材投入のバランス、塩鉄利用の意味などが、やがてヴェトナムの若者にコントロールされる日も遠くはない。

食堂で、U 副社長 O 役員に伴われて従業員に倣い、ご飯に加え肉・魚いずれかの総菜を盛って頂いた。日本円で約 40 円というが、会社の支給である。とにかく食べ物は豊富で安い。

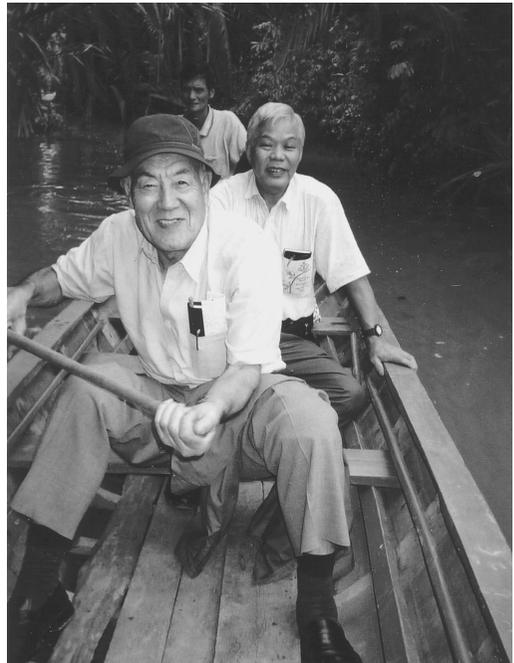
引き続き、工業団地内の汚水処理場に案内して頂いた。苛性ソーダによる中和、次亜塩素酸ソーダによる酸化と曝気、ポリ塩化アルミニウムによる凝集沈殿を、5 万  $\text{m}^3$  の台形の敷地一杯に広がるプールや曝気槽、沈殿池によって日量約 5 万  $\text{t}$  の汚水を処理していた。原水はゴミや油で汚れているが、生活排水は入らないようで、放流水は電導度  $300\mu\text{S}$  台、工業用水には使えるだろう。



(遊覧船からメコン川岸)

慌ただしい一日を終わり、せめて、メコンを観て帰れと、〇役員に伴われ、ヴェトナム戦時代にサイゴンの西にふくれ上がった有名なショロン(中国人居住区)の路地を尋ね、日曜バスツアーの切符を求めて頂いた。一日観光が 20 数ドル、9 ドルなどというツアーもあり、リュックを背負った色々な国の若者が、狭い店内に溢れ歩道に佇んでいる。土産物はともかく、裏町に並ぶ商品の値札の殆どに米ドルの表示が並ぶのも奇異だが、調べれば、サイゴンが陥落(現ヴェトナムから言えば解放)し、米軍の北爆に始まるヴェトナム戦争が終結したのが 1975 年 4 月 30 日とあるから、もう 30 年の昔である。敗れたとは言えその頃からのドルが今でも強いのか？外人観光客が多いのか？ただし、ここでも日本円が使えるのは、まんざらでもない。

帰途、車で戻るホー市の中心街は、一抱に余り、高さ二十餘を悠に超えるアカシアらしい巨木の並木が、脇道にまで連なる。1887 年、仏領インドシナ連邦成立の時代から、1940 年、日本軍インドシナ進駐・フランス軍武装解除、41 年結成されたホー・チー・ミン(グエン・アイ・コック)のヴェトナム独立同盟(ヴェトミン)による抵抗運動、第 2 次世界戦終了後の 45 年 9 月、ヴェトナム民主共和国独立宣言、54 年ディエンビエンフー陥落によるフランス軍撤退、ジュネーブ協定による 17 度線を境とした北ヴェトナム独立、ゴ・ジン・ジェムによるサイゴン政府擁立、61 年ケネディ大統領による本格的なヴェトナム介入と 65 年からの北爆開始、南ヴェトナム解放戦線と米軍に支えられた南ヴェトナム政府軍とのヴェトナム戦争、度重なるサイゴン政権のクーデターや混乱、隣国ラオス、



(メコンクリークで)

カンボジアにまで拡大したインドシナ戦争、やがてサイゴン陥落と南北統一に続く血みどろの人間の抗争をどのように見下ろして来たのだろう。

翌日、午後に予定された地元めっき工場訪問に先立ち、大統領官邸跡と、その東側の街中に無造作に置かれた「戦争証跡博物館」を尋ねた。旧は役所の施設でもあったろうか？前庭に錆び朽ちた攻撃機や野砲、数々の爆弾、重火器が雑然と置かれ、下をくぐるようにして、大勢の若い外国人観光客達が、物珍しそうに行き交う。狭いプレハブの展示室には、正視に耐えない住民の虐殺死体や米軍兵士の姿が戦いの惨状を伝え、「虎の檻」と呼ばれ、天井の鉄格子以外には出口のない狭い牢獄や死刑台がしつらえられ、当時のヴェトナム人同士の憎しみを語っている。目を背ける観光客は声もない。後に続きながら「地獄の黙示録」の凄惨な幾つかのシーンを思い浮かべた。(続く)

# 1月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷	メ モ
1	土	元旦			
2	日				
3	月				
4	火				
5	水			城東支部(仕事始め)	
6	木			城北支部	
7	金	正副理事長会、新年賀詞交歓会(京王ﾌﾟﾗﾝ)		葛飾支部	
8	土				
9	日				
10	月	成人の日			
11	火		城南支部	中央支部	
12	水		大田支部	目黒・世田谷地区	
13	木			足立支部	城北支部新年会
14	金		品川支部・大田支部	葛飾支部	
15	土				
16	日				
17	月			西部支部	
18	火		城西支部	品川地区	
19	水		城西支部・城北支部	向島支部	
20	木		中央支部・本所支部	本所支部	全鍍連常任理事、理事会、新年会
21	金		向島支部	葛飾支部	
22	土				
23	日				十日会新年会
24	月			蒲田・大森地区	
25	火		西部支部	城西支部	
26	水	技能教育委員会	城東支部・葛飾支部		
27	木	監事会	葛飾支部		
28	金			葛飾支部	
29	土				
30	日				
31	月		足立支部		

(役員会、委員会は変更する場合がありますので、本部からの通知をご確認下さい)

# 東鍍工組高等職訓校第36期訓練生募集

## 本校の特色

1. 職業能力開発促進法に基づく「めっき技術者養成」の全国初の認定職業訓練校で、専門教育訓練機関として、永い歴史と伝統があります。
2. 基礎実技から専攻実技へと最大限の「実技教育訓練」を取り入れています。
3. ものづくり現場での実務知識や経験を持つ優れた講師陣が、基礎から応用まで、懇切丁寧に指導します。
4. 本校の教育訓練は“現場での即戦力養成”がモットー。本校での授業は業界で必要とされる各種資格取得への道が開かれています。
5. 授業では教科書、教材をはじめビデオ、OHP等の視覚教材を可能な限り活用し、教育訓練効果の向上を図っています。

## 取得できる資格

- (1) 技能照査(学科、実技試験)合格者には、合格証書および技能士補の称号が東京都知事授与されます。
- (2) 合格証書により技能検定2級(国家試験)の学科試験の免除されます。
- (3) 東京都1種公害防止管理者の資格が取得できます。
- (4) 特定化学物質等作業主任者および有機溶剤作業主任者の資格が取得できます。
- (5) 粉じん作業の特別教育修了証(受講者)が交付されます。

その他、自社の品質管理や生産管理、また技術改善等に必要な場合は、本校の各種試験器具や測定機器類の利用(有料)等、他数々の特典があります。

### 募集概要

募集科目	金属表面処理系めっき科
募集人員	40名(先着順による)
訓練期間	1年間(平成17年4月～18年3月)
訓練日時	毎週 火、金曜日(午後2時～8時00分 但し実技は8時30分、特別科目は9時20分まで)
入校資格	高卒以上または同程度の学力のある方
費用	年額346,100円 費用納入は入校時、6月末、9月末、12月末の4回に分納します。
募集期間	平成16年12月～17年3月
その他	訓練校の主旨に賛同いただけただけの方であれば資格は特に問いません。 申込順に授業に支障をきたさない範囲で許可します。 聴講制度があります。聴講料は有料です。

### 国内留学制度

東京都以外の道府県に所在するめっき事業所に勤めていて通学が困難な方やめっき会社に勤めていないが、めっき技術を学びたい方のために、当訓練校で修学する便宜(東京の組合員事業所に勤務するなど)をはかる制度です。

### 無料一日体験入学

入校を検討中だが、カリキュラムの内容や校内の雰囲気を知りたいと希望される方の為の1日体験入校制度です。学科カリキュラムの説明を受けたり、授業参観することで1年間の教育訓練の内容が分かります。個別のご相談もお受け

# 1月 高等職業訓練校授業案内

		授業日(火・金) 授業時間(A:14:00～17:00 B:17:00～20:00 C:17:00～20:30)		
日	曜	時	科目	内容(予定)
11	火	A	はく離① (めっき法)	めっき皮膜のはく離方法  (株)ハイテクノ 鈴木昭一
		C	環境法令① (安全衛生)	公害法規の体系、東京都環境条例の解説  東京都鍍金工業組合環研 志賀孝作
14	金	A	はく離② (めっき法)	素地金属及びめっき金属の確認、はく離の化学、皮膜確認。 <b>技能照査説明</b> (株)ハイテクノ 鈴木昭一
		B	環境法令② (安全衛生)	水質汚濁及び水質汚濁防止のメカニズムと法令、排水処理方法等。  東京都立産業技術研究所 小坂 幸夫
18	火	A	ひっかけ治具③ (めっき法)	ひっかけ治具の製作(技能照査実技試験用) <b>技能照査説明</b>  海野鍍金工業(株) 海野吉正、鍍金組合環研 長嶋政人
		C	環境法令③ (安全衛生)	東京都環境保全条例の解説。  東京都鍍金工業組合環研 志賀 孝作
21	金	A	品質管理① (生産工学概論)	品質管理、工程管理、工程改善、作業標準化、管理図等。  矢部技術事務所 矢部 賢
		C	環境法令④ (安全衛生)	環境基本法、大気・水質・振動騒音防止対策の総括 <b>【公害防止管理者資格試験】</b> 鍍金組合環研 長嶋政人
25	火	A	品質管理② (生産工学概論)	不良対策6ステップ、不良の確認法、原因の解析法、工程の改善、発生防止等。  矢部技術事務所 矢部 賢
		B	塗装 (金属表面処理)	目的、塗装の選定、下地の調整、塗料の種類と成分等。  日本大学生産工学部 大野 茂
28	金	A	電着塗装 (金属表面処理)	原理、長所、短所、カチオン・アニオン電着の機構、電着塗膜の性能  日本大学生産工学部 大野 茂
		B	原価管理① (生産工学概論)	品質保証、品質マニュアル事例、国際規格審査登録等の解説  (株)平和工業 内藤 雅文

※聴講料は1科目クーポン券3枚、又は7500円です。

# ピック・アップ

## ニッケル濃度を制御

(日刊工業新聞 04.11.18)

大阪府立産業技術総合研究所は、イオン交換膜と不溶性陽極を用いる金属メッキプロセスを開発した。通常用いる陽極の一部をイオン交換膜付き不溶性陽極に置き換えてメッキ槽に設置、両陽極への電流を制御することで、メッキ液中のニッケルイオン濃度が制御可能になる。メッキ液の長寿命化や、メッキ後に行う金属イオンを含む水洗水の再利用につながる。

不溶性陽極は、カチオン(陽イオン)交換膜付きのチタン製陽極室に硫酸と酸化イリジウム/チタン電極を入れた。メッキ工場での実証実験では、イオン交換膜付き不溶性陽極導入後に陽極の電流を制御し、メッキ液中のニッケル濃度を維持でき、メッキ液の長寿命化が図れた。

通常のメッキ装置では、同じメッキ槽内にニッケル陽極と被メッキ品がある。陽極ではメッキ液中の添加剤など有効成分の分解反応が起こる。また、メッキ皮膜形成効率よりもニッケル溶解効率の方が高いため、この差によるニッケルイオン濃度の増加が起こる。さらに金属イオンを含む水洗水を戻すとニッケルイオン濃度が増加する。

こうした状態でメッキ液の使用を続けると、メッキ液粘性の増加、メッキ欠陥発生、光沢剤の消費量増加につながり、濃度の高いメッキ液を定期的に希釈する

必要がある。今回開発したプロセスを用いれば、光沢剤の使用量軽減やメッキ液の品質保持が可能になる。

## 北の大地で輝く

(日刊工業新聞 04.11.19)

「メッキのデパート」と周囲が評する札幌エレクトロプレイティング工業(SEP)。チタン素材への白金メッキ技術など独自の金属被膜・表面処理技術の開発を重ねている研究開発型企業だ。嶋村清隆専務は「北海道では何でも引き受けなければ生きていけないから」と控えめに表現するものの、顧客ニーズに応えるために挑戦を続けてきた姿勢が技術力と総合力を培った。自ら精密部品の加工までを行うようになったのも、こうした姿勢の延長にある。チタン素材に白金メッキを施し、さらにその白金をはく離・回収する技術の特許を出願したのは 91 年。海水電解装置に使うチタン製陽極をつくるためには不可欠だった。

99 年から 00 年にかけては軽合金に高い耐食性を付与する被膜技術や、超合金に耐酸化性被膜を施す技術で立て続けに複数の特許を出願。生分解性樹脂の射出成形に適している金型の開発などのニーズに応える技術だ。これらは北海道大学などとの産学官の共同開発を通じて具体化した。最近もジェット機のエンジンタービン翼の表面処理などに挑戦した。小所帯にもかかわらず、成田敏夫北大教授の研究室に社員を常駐させている。複合メッキ、合金メッキの技術をさらに高めるとともに、有害物質を使わない新たなメッキ技術の確立が現在のテーマだ。SEP は個人事業の「札幌めっき工業所」として 58 年に創業。炭坑で使う採

---

---

掘用カッターにメッキを施す仕事を原点としている。法人化を経て、70年代後半には経営者の病気に加え、火災による工場焼失という苦難の時期を乗り越えた。

### 無電解メッキ装置で米に合弁

(日刊工業新聞 04.12.1)

大日本スクリーン製造は、米国の大手半導体検査・計測機器メーカーの KLA テンコール(カリフォルニア州)と半導体関連事業の合弁会社「Blue29 社」(カリフォルニア州)を設立した。線幅 65 ナノメートル以降の半導体製造プロセスに使う無電解メッキ装置の開発・製造・販売を行う。07 年度に売上高 100 億円、単年度での黒字化を目指す。スクリーンは米国子会社を通じ新会社に資本金の 35%にあたる 1000 万ドルを出資。残りは KLA テンコールが受け持つ。最高経営責任者(CEO)にラトソン・モラッド氏、最高業務責任者(COO)にはスクリーンから出向の英隆行氏が就任。社員は 30 人。無電解メッキ装置は、半導体の微細化に伴う断線防止のため、銅配線に製膜するキャップメタル工程を行う。装置は 05 年夏をめどに開発、出荷を目指す。

### 浮かれぬ

(日刊工業新聞 04.12.8)

「フィルム製造ラインで使われ圧延ロールへの硬質クロムメッキの受注がこのところ好調で」と笑みを見せるのは、硬質クロムメッキ専業の大森クロム工業社長の小口順一郎さん。本社工場にはメッキを待つアルミ製ロールが所狭しと並んでいる。「大半が液晶パネルの樹脂フィルムを製造する機械に組み込まれるようだ。これもデジタル家電拡大のおか

げ」という。「硬質クロムメッキは機械関連には付きものながら、好調の波に乗れたのも長年の技術と経験の蓄積があつてこそ」と、にわかな活況にも浮かれてはいない。

### 高品質メッキプロセス開発

(日刊工業新聞 04.12.9)

大阪府立産業技術総合研究所は、イオン交換膜付き不溶性陽極を用いた硫酸銅メッキプロセスを開発した。メッキ被膜の欠陥となる要因を低減できるため、印刷ロール、プリント基板配線・電子部品などに用いられる硫酸銅メッキの高品質化、光沢剤の使用量低減につながる。新プロセスでは、希硫酸の入ったイオン交換膜付き陽極室に酸化イリジウム系不溶性陽極を入れメッキ液と分離させる。メッキに用いる銅は酸化銅をメッキ槽外部で溶解させて、ポンプを通じてメッキ液に供給する仕組み。

従来用いているリンを含む銅陽極では、陽極残渣がメッキ液中を浮遊し、メッキ皮膜品質を低下させてしまうが、開発した手法ではこれを防げる。また銅イオン濃度の増加を防げるため、定期的に行う必要があるメッキ液の廃棄などメッキ槽管理が軽減できる。

硫酸メッキラインで実機試験を行ったところ、液組成が一定化し、連続メッキでも問題がなかった。光沢剤の陽極での分解が防げるため、補給用光沢剤の投入が約 10%削減できる効果も上がったという。

## ■十日会

### 11 月例会

#### 「ISO マネジメントシステム」

十日会(斉藤晴久会長)は、11月11日午後7時からめっきセンターで会員26名が出席して例会を開き、アオイ環境(株)環境システム課次長古田智子氏から、「ISO マネジメントシステムの現状と展望」をテーマとする講演を聴いた。古田氏は、ISO マネジメントシステム規格について誤解されていることにふれながら制度を解説した。

はじめに梅田伊三夫幹事の司会で開会し、斉藤会長は「今年は相次ぐ台風上陸による被害、新潟中越地震など暗いニュースが続き、良いニュースが聞かれないが、十日会の先輩である遠藤清孝氏が12月19日に結婚という明るいニュースがある。後程遠藤氏がみえるので、その時はクラッカーを鳴らしてお祝いしたい。本日はISOを梅田幹事が企画してくれた。最近中国のローカル企業が強く、日本との価格の勝負では意味がなくなり、我々がやらなければいけないことは、きちんとした品質管理を行い、責任をもって製品を出せるということが製造業にとって最低限必要だと思う。そのために社内で良いシステムで運営できることが大事であると企画して頂いた」と挨拶、講演に入った。以下講演概要を紹介する。

アオイ環境はISO取得が本業ではなく、お客様の環境経営を支援する会社である。ISOは信頼性が低下してきていると一般的に言われている。ISOを取っても役に立たない、文書が増える、お金ばかりかかるという声を聞くが、この規格は本来どういいうものか、その辺の正しい情報が意外と知られていない。①<ISOの審査登録制度は、国に認



められた制度?>ではない。この制度は民間の制度で、日本では日本適合性認定協会(JAB)が審査登録機関、審査員研修機関、審査員評価登録機関を認定登録している。したがって審査登録機関は、JABの発する基準文書を満たす組織を立ち上げ、JABの認定審査を受け認定されればだれでも容易に設立できる。会計監査法人、保険会社、株式会社、NPO法人、業界団体などを経営母体に行っているケースが殆どである。②<ISOの審査には合格と不合格があり、審査に落ちることもあり得る?>との見方もあるがそんなことはない。ISOの仕組みは第三者である審査登録機関に依頼して証明して貰うことが認定取得であり、本審査の前に予備審査があるので不適合はあっても不合格はない。③<ISO取得活動は普段の業務とは別物?>ではない。取得活動は普段の業務を体質強化する取り組みで、ISOに示されている経営の要求事項を使って自社の仕事をチェックし、出来ていないところを補強・強化する活動である。ISOでいうマネジメントシステムは自社の業務管理の仕組みそのものを指す。④<ISOは業務のマニュアル化?>ではない。ISOは自分達の仕事の仕組みを補強させるためのもので、業務のチェックをISOを使ってやると、業務上の課題が浮き彫りになり、その解決を図り事業の発展につながる。⑤<ISO取得すると文書が増える?>

といわれているが、文書は増やすから増えるもので、通常の業務で使っているもので規格要求を満たすことができる。それでも作成する必要がある場合は ISO に関係なく作った方が仕事にスキがなくなる筈である。⑥<ISO で掲げた取組み目標は、達成できないと認証はとれない?>といわれているが、ISO 取得は継続的改善へのチャレンジが目標なので、活動方針を立て計画を実行し点検は正を繰り返し行えば解決の道が開ける。⑦<ISO を取得すれば何らかのメリットが出る?>と考えがちだが、ISO 導入は狙いと目的の達成を目指し、自社の業務の仕組みに工夫を重ねて改善を続けることなどで、導入の狙いと目的が明確になって初めてメリットが期待出来る。ただし、顧客から取得するように要求された場合は取引メリットが生まれる。

## 十日会忘年会

十日会(斉藤晴久会長)は、12月2日(木)午後7時よりJR両国駅前の「ふぐ。魚匠“たらふく”」で会員31名が出席して忘年会を開催した。

梅田幹事の司会で開会し、斉藤会長は「早いもので12月になり一番先にやろうと12月早々に催させて頂いた。私は昨年9月に社長の役職につき何か違うなと感じながら、今年4月から十日会会長という大役を仰せつかり、早8ヶ月が経過した。最初は大丈夫なのかという心配もあったが、役員会で役員と時間を過ご

しながら色々な話をし、役員が頼もしく、私の足りないところを補い色々なアイデアを出して頂いて助かっている。会を催すとこのようにみなさんが参加してくれて有り難く思っている。そのようなことで忙しい毎日を過ごしているが、忙しい毎日でも少しずつ楽しくなってきた1年であった。それぞれ良いこと悪いことがありながらこうして元気に忘年会を迎えられた。今日はふぐ尽くしたが、ふぐはふくとも呼ばれ、福にもつながるゲンの良い食べ物らしいので店名のようにたらふく食べて良い年を迎えられるように楽しい時間を過ごして頂きたい」と挨拶した。

元会長の八幡順一副理事長は「今年は相次ぐ台風上陸と新潟中越地震で各地に大きな被害が出ており、被災地には一日も早い復旧を祈りたい。景気も前半は良かったようだが、ここへきて足踏み状態である。暮れになり元会長の遠藤清孝氏の結婚というめでたいニュースがあて良かったと思う」と述べたあと乾杯音頭をとった。懇親会は遠藤清孝元会長の閉会の辞までなごやかに進められた。



## 野上榮一氏令夫人由子様のお別れ会開催

東京都鍍金工業組合相談役の野上榮一氏（野上化学工業(株)会長）の令夫人由子様（76）は長らく入院加療されていたが、10月23日腎不全のため亡くなられ、26、27日近親者で密葬が行われた。四十九日法要を済ませて12月4日（土）12時30分から上野東天紅で親族、友人、会社、組合関係者等204名が出席してお別れ会が催された。

お別れ会は、遺影が掲げられた祭壇に参列者が献花してから始められた。大和田昌宏氏の司会により、施主の野上榮一氏は「由子は、私の妹と東京家政学院のクラスメートであった関係から紹介してもらった。私は荒川区の都立航空高専を出たが、戦後飛行機関係の仕事ができなくなり、めっき業界のお世話になることにした。昭和24年に若いスタッフ2人と田端新町にめっき工場を出し、1年後に由子と所帯をもった。町工場であり、嫁にきたからといって朝から晩まで工場の手伝いをし、寮の世話をやき、私のかげの力となってくれた。時には長靴を履いて工場で働いてくれた。子供たちが育ち自分の好きな裁縫や稽古事を始めたが、その頃から手がこぼったり、関節が痛むなどリュウマチの症状が出てきた。何事に

も一生懸命にやる性質で、あちこちの病院、色々な薬、療法などを試し良くなったり、悪くなったりしたが、徐々に病状が悪い方に傾いてしまった。昭和の終わり頃、悪性の肺炎を起こし強い薬を使ったために内臓が侵されて、後遺症も残り、慢性肺炎のようになった。杖、手押し車を使って歩いていたものが車椅子になり、入退院を繰り返しながら元気なときは頑張ってきたが、今から2年半前に発作が起きて以降はベットに入りっぱなしとなった。肺炎が慢性化して咳、痰を喉に穴をあけて吸引した。食事もとれなくなり、鼻から流動食をとったり、点滴をしていたが、段々抵抗力がなくなり、今年9月頃喉から出血し、腎臓も働かなくなった。10月23日に呼吸が細くなり途絶えてしまった。私はリュウマチでは命を失わないと思っていたし、何回かの危篤を乗り越えてきたので、今度も何とかかなると思っていたので、息を引き取った時は頭の中が真っ白になり何を考えたらよいのか分からなくなった。子供たちに叱咤され、近所の方のお力添えで俗名で野辺の送りをした。戒名“雲上院華月妙由大姉”を頂き本日四十九日法要を済ませて納骨してきた。急に



色々なことを考えたため 12 月のお忙しい中でお別れ会を催しみなさんにはご迷惑をおかけしたと思う。よみの国へ安らかな暮らしを求めていった由子のために、にぎにぎしく会を盛り立てていただければ供養になると思う」と挨拶をした。このあと、東京都鍍金工業組合の大村功作理事長、田端新町 1 丁目睦会顧問及び北区法人会副会長の大塚定次郎氏の挨拶のあと、野上家と 50 年来のお付き合いのある、みのわ会長の高橋浩氏が献杯した。会食中、由子様の友人から思い出話が語られ、故人のおもかげを偲んだ。最後に社長の野上敬氏のお礼の挨拶をもってお別れ会を終了した。

## 訃報

謹んでご冥福をお祈り致します。

**長谷川光太郎氏**（日本鍍金材料協同組合専務理事、長谷光(株)社長）入院加療中のところ 11 月 7 日午後 8 時 40 分死去、55 歳。告別式は 12 日午前 10 時から町屋斎場で行われた。喪主は夫人のよし子さん。

**岩佐 昇氏**（葛飾支部・(有)岩佐メッキ工業所岩佐博巳社長のご尊父）11 月 29 日午後 7 時 21 分腎不全のため死去、79 歳。告別式は 12 月 3 日午前 10 時から四ツ木斎場で行われた。喪主は息子の博巳氏。

## (有)片野鍍金工業所

### 3価クロメート勉強会

自動車メーカーなどを中心に 6 価クロメートを削減する方向にあり、これに代わる代替処理が急務となっているが、西部支部の(有)片野鍍金工業所(片野良忠社長)は 3 価有色クロメートで耐食性、色調を 6 価クロメートと同等に調整した処理法を開発して事業を展開している。コストも安く仲間みんなに使ってほしいと地域の仲間呼びかけてきた 11 月 13 日、同社で勉強会を開催した。

西部支部Aブロックの 3 社が集まり、それぞれ自社で亜鉛めっきした製品を持ちよって実際に 3 価クロメートをつけてその色合い等を確認した。開発された 3 価有色クロメートは 6 価クロメートの色に酷似した黄色で、処理液温度が 20~25 度 C と常温処理が可能、

乾燥も常温でよく取扱いやすくなっている。各社持ち寄っためっき製品の浴種類により、ジンケート浴では 6 価と同じような色調となり、シアン浴では色が出にくいといわれるが、実際につけたものをみると、参加者はいままで使っている 3 価クロメートより黄色が出ているという。

同社はこれまでの開発過程で、薬品メーカーなど 2 社の分析によって処理後も 6 価クロムが検出されないことを確認、また、pH 管理や薬品調合などの管理時間短縮やコスト削減をはかるために改良を進めるとしている。



# (株)旭電化研究所 立川に新工場

(株)旭電化研究所(城西支部・溝口昌範社長)は、東京都立川市に新工場を立ち上げた。

一部、FPC(フレキシブル プリント基板)の半田めっき、鉛フリーめっきは、10月18日より稼動しており、平成17年1月より、金めっきを含めたFPCのめっきを、現在の埼玉県和光市より全面移管する。



新工場の概要は、敷地 200 坪、建物 1~3 階、共に 100 坪の 300 坪。生産能力は、半田めっき系が 4000 シート/日、電解金・無電解金共に自動ラインを新規導入、電解金 3000 シート/日、無電解金 2000 シート/日のキャパを持つ。

これにより、従来、液晶分野などで需要の伸びている FPC のめっき加工に関し、さらに力を入れ、また、分析、評価機器なども導入し、充実した品質管理をベースとした生産力のアップと、顧客確保を狙う。

新工場住所 東京都立川市一番町 4-22-5 TEL042-520-1772 FAX042-520-1712

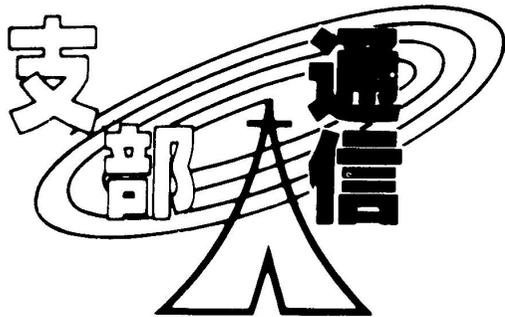
本社は当面現状の東京都練馬区旭町 2-17-7 となる。

---

## 日本フィルター(株)

### 代表取締役 に 橋本ひろみ氏 就任

日本フィルター(株)は、12月8日の定時株主総会並びに取締役会において橋本康彦氏が代表取締役を辞任し取締役会長に就任、後任の代表取締役に専務取締役の橋本ひろみ氏が就任したことを発表した。



## ■城南支部

### 木村秀利氏都知事表彰受賞祝賀会

城南支部(中澤敏明支部長)は 11 月 26 日(金)午後 6 時から目黒雅叙園で来賓、支部員 70 名が出席して忘年会を兼ねて木村秀利氏(木村鍍金工業(株)社長、組合本部常任理事・広報委員長)の東京都知事表彰受賞祝賀会を開催した。

第一部の式典は、若山満事業部長の司会により、小谷野英勝副支部長は「木村

氏の都知事表彰受賞は本人はもとより城南支部にとっても大変うれしいことであり、祝賀会を企画させて頂いたところ、多数の参加を頂き感謝申し上げます」と開会の挨拶をした。

中澤敏明支部長は「木村氏の都知事表彰受賞祝賀会に本部役員をはじめ支部員多数のご出席頂き感謝申し上げます。今年は新潟中越地震や誘拐殺人事件、経済ではだいが良くなってきたといわれるが円高により景気が悪い方に引っ張られるのではないかと懸念されるなど暗い世の中で、木村氏の受賞は我々支部員にとっても光栄だと思っている。当初、祝賀会をやろうと支部役員で決め、木村氏に相談したところ、絶対に嫌だということだった。それでは忘年会を兼ねて開こうということで何とか了承して貰った。それから時節がら質素にして下さいということだったので、本部常任理事以上の役員と広報委員会に声を掛け今日に至りました。食べ物は豪華にしたつもりではあり



ますが、時間の許す限りご歓談を頂きたい」と挨拶があった。

来賓として、小杉隆衆議院議員、三宅茂樹都議会議員、大村功作理事長から木村氏の人柄や功績、奥様の内助の功を称える挨拶があった。

次いで、東京都鍍金工業組合、東京鍍金公害防止協同組合、城南支部、東京都鍍金工業組合広報委員会からの記念品贈呈と支部の板倉富美子さんから花束が贈られ、大きな拍手がわいた。

木村秀利氏は「当初私が推薦された時、もっと他に立派な人がいると辞退したが、私が断ると後に続かないこともあるということでお受けることにした。受賞後、支部長から祝賀会の話があったが、私はこの時期に皆さんに迷惑を掛けるので一切しないしてほしいと堅く断りました。その後やるやらないでもめたが、支部長が知恵者でそれなら忘年会をやろうと、忘年会は支部長の権限であり、私も従わざるを得ない。私は支部だけでやって頂けるものと思っていましたが、話が広がり、正副理事長、常任理事、広報委員会に声をかけることになりました。本当に仲間内の皆さんです。それから私の功績の中に地域の活動というのがありますが、私が民生委員を受けたのは歳を取った時にどなたかに面倒みて貰わなくてはならないということでお手伝い出来る時にやっておこうという考えか



### (記念品贈呈)

らです。皆さんご存じのように大変なスピードで高齢化社会になり一人暮らしの人がかなり増えてきています。出来るだけ地域のために尽くしたいと思っています。また、保護司の方は、仮釈放になった方が罪を償って社会に復帰するための相談などを受けています。業界の皆さんのお陰で受賞出来たことを感謝し、お礼申し上げます」と謝辞を述べた。

第二部の祝宴は、姫野正弘副理事長の祝杯で始まり、広報委員の籠利達郎氏がドラムをつとめる池田美和子カルテットのジャズ演奏が流れるなか懇親会が進み、最後に伏原暉幸副支部長の万歳三唱で盛会裡に閉宴した。



## ■城東支部

### 第6回ときめきフェアに出展

第6回「産業ときめきフェア in EDOGAWA」(江戸川区、産業ときめきフェア実行委員会の主催)が11月19～20日(金・土)、都営新宿線船堀駅前のタワーホール船堀(江戸川区総合区民ホール)で行われた。区内製造業を中心とした企業が製品展示・技術力を紹介し、ビジネス交流、取引等の活性化をはかることを目的に開催されており、今回は135社・団体が出品した。

城東支部(遠藤清孝支部長)は毎年同フェアに展示参加し、本年はビデオモニターによりめっき製造工程を紹介するとともに、江戸川区内のめっき工場でめっき加工された各種製品を展示し、めっきの重要性をPRした。

展示品は、ロジウムめっきの高級ネックレス、銀めっきのアクセサリ、金め



っきのクサリ、硬質クロムめっきの工業用ロール、ヤスリ、溶融亜鉛めっきの大型ボルト、ニッケルめっきの噴霧器、亜鉛めっきクロメートの自動車部品等、ニッケルめっきのハトメ、がま口の口金などで、来場者の関心を集めていた。

展示コーナーには八幡副理事長、遠藤支部長など役員が応対に当り、来場者の質問に答えるとともに、来訪した本部役員、各支部役員の接待に当たっていた。



## ■城北支部

### 環境管理強化月間講習会

城北支部(篠根健一支部長)は10月26日午後6時から荒川区サンパール荒川において環境強化月間講習会を34名の出席で行った。森環境委員の司会進行により講習が始まり、篠根支部長より「お仕事でお疲れのところお集まり頂き厚く御礼申し上げます。景気の方は大企業は良くなったと聞いていますが、我々の周りでは8月以降腰砕けのようで、決して忙しくない状況だと思います。また、環境問題から始まります、グリーン調達等規制により一層厳しい状況になっております。環境を守る事はもちろん大事です。そういった中で私たちが成り立つように環境行政を見守って、運動していく必要もあります。」と挨拶をした。

まず東京都下水道局北部第一課の菅原課長より「排水規制事業についても包括外部監査(都の事務業務が効率的に行われているかの監査)が行なわれ、違反を繰り返す事業者に対しては重点的な指導・監視を強化すべきであり、さらに、広域的水質管理体制を効率的に進め、従来どおりの指導という立場を再検討して違反する事業者に対する規制を強化すべき、との意見が東京都議会に提出された。これを受けて今後当局も監視強化していく。また、国土交通省から悪質下水等の流入事故への迅速な対応について連絡体制の整備を図るよう要請があった。事故等の緊急時における事業所内の連絡体制について再度周知をお願いしたい。」と下水道事業の概況についてご説明頂いた。続いて辻係長より違反状況の現況についてのご説明で「事業場の数は減り続ける

が、違反率は凸凹である。新規の規制物質の追加に処理技術が追従していないと思われる。最近の違反で多いものは、鉛・銅・pH・セレンの順で違反が多い。鉛では微少な違反の件数が多い。」とのこと、また日常のメンテナンスについての指導も頂いた。上野次席よりシアン監視の報告を頂き、続いて「国の環境技術実証モデル事業で礬素の廃水処理技術が追加され、省スペース・低コストで既存の廃水処理施設利用する内容で検討されている。亜鉛の規制では平均値規制の話があり厳しい内容である。」とご説明頂いた。また平均値規制の内容については下水道局側でも明確な内容は把握していないとのこと。

質疑応答では、下水道局の流入先によって基準値が異なることについて、パブリックコメント等、新規規制についての意見を求める際に下水道局だけでなく業界からも意見を出すよう言われた。

続いて、カニング・ジャパン株式会社により三価クロムについての講習が行なわれ、三価クロムの性能、現状、従来よりの改良点等についてご説明頂いた。業界に対しての三価クロムの要求も増えて、熱心な質疑応答が行われた。

最後に今回講習して頂いた、東京都下水道局北部第一課及びカニング・ジャパン株式会社の方々に御礼申し上げます。排水規制事業の包括外部監査

<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2004/02/60e2p100.htm>  
国の環境技術実証モデル事業

[http://etv-j.eic.or.jp/01\\_intro.html](http://etv-j.eic.or.jp/01_intro.html)  
パブリックコメント

<http://www.env.go.jp/info/iken/h160428a.html>

## ■城北支部

### 城北支部家族リクレーション

城北支部(篠根健一支部長)は11月28日支部家族リクレーションを開催した。参加者は30名で、早朝バスにてJR日暮里を出発しました。車窓からは、快晴に恵まれた甲斐の山並みに遅い紅葉が眺め、行楽モードも最高潮へととなりました。

一行は、山梨の昇仙峡の影絵美術館を見学した後、今回の目的である、蕎麦打ち体験へと向かい、蕎麦道場すがわら屋にて13時より体験を開始、およそ1時間半に及ぶ蕎麦打ちは思ったより難しく、練り→打ち→切り なかなか思い通りならない皆さんは、手先より口が忙しいほど賑やかな蕎麦打ちとなりました。

体験終了後、同じ店内にて宴席になり最初に支部長より、日頃の支部に対する協力と理解の御礼並びに今回のスタッフの労いを含め挨拶されました。続いて(有)信栄舎



メッキ工場の須永社長が乾杯の発声をして和やかな宴席が始まりました。途中、先程自分達が打った蕎麦が茹で上がり舌鼓を打って皆さんも満足の様子でした。

夕刻4時に一行は昇仙峡を後に一路東京へと向かいました。

編集後記 一言に蕎麦打ちと言われるが、やはり微妙な指先や手加減とタイミングは極意でかなり奥が深いです。また、帰路渋滞を予測して車中でゲーム、ビンゴなど題名通りの家族リクレーションは大成功だったと思います。最後になりますが、以上の様々な当日の下準備をされた係の方々には頭が下がる思いを致します。(佐藤 賢一)



## ■足立支部

### 環境管理強化月間講習会

足立支部(永田一雄支部長)は、環境管理強化月間ということで11月18日(木)午後7時より、中曽根会館に於いて32名が出席し、東京都下水道局北部第二管理事務所 高木敦子業務課長、小河原道正水質規制係長を講師として迎え「排水処理の現状と問題点並びに今後の動向」という演題で講習会を行った。

はじめに細井副支部長が、高木、小河原両氏を紹介し、続いて永田支部長が挨拶で「我々めっき業に携わる者としては排水に対する規制値がますますきびしくなっている。しかし、この規制値を遵守するためにどうしたらよいか、困っている事があつたら下水道局および支部執行部に相談してほしい」との挨拶があつた。

さて、講習会ではまず、高木課長より今年2月に作成された「経営計画2004」として、①「安全で快適な都市生活をめざして」内容は、重点事業の推進として、道路陥没や臭気の発生などを抑制するため、老朽化や能力不足が著しい施設の再構築の実施、下水管やポンプなどの能力の増強による浸水対策の推進、下水管の耐震化によるトイレ機能の確保や、水再生センターの計画的な耐震補強の実施による震災対策の推進、雨天時に下水を河川等へ放流する回数を削減するとともに、ごみや油などの流出を抑制するための合流式下水道の改善、公共水域の水質を改善するため、ちっ素、りんを除去する高度処理の導入推進の説明、維持管理の充実として、道路陥没の原因となる下水管の損傷を防止するため、巡視・点検、立ち合いの充実による安全性の向上、ごみや油などの流出を抑制するため、下水管の計画的な清掃や、臭気へ

の対応強化による快適性の向上、テレビカメラ調査などによる下水管・ポンプ設備の老朽度評価に基づく計画的補修などの事業の効率化の説明、②「お客さまサービスの向上と経営改善」として、桜まつり、ホテルのタベなどイベントの充実による地域とのパートナーシップの充実、浸水予想区域図の作成・公表、雨天時の幹線水位情報の区への配信、職員が学校に出向き授業のサポートを行う「でまえ授業」、ホームページ・携帯電話への降雨情報の提供、インターネットを利用した下水道モニター制度の拡充、徹底した経営改善努力、現行の下水道料金の維持の説明によるお客さまサービスの向上、③「地球環境への貢献」として、下水道事業における地球温暖化防止プラン(仮称)、ヒートアイランド対策、環境マネジメントシステムの運用、改善、地球環境の保全への貢献の説明があつた。

次に、小河原係長より、平成元年度から平成15年度までの違反件数、および違反内容についての報告があつた。違反内容については、その項目と原因、特に機器の故障による違反が多いので、点検の重要性を指摘した。また、ほう素、ふっ素については、回収槽、水洗槽、pH調整槽、放流水ごとの調査結果の報告および、基準適・不適の要因の説明があつた。最後に、10年間無事故無違反優良事業所として、セテック、トヨタ電鍍、坪井鍍金工業の3社が表彰され、閉会した。



## ■足立支部

### 「あだち地場工業製品フェア」出品

足立支部(永田一雄支部長)は12月6日、7日(月・火)、足立区役所内庁舎ホールで開催された「第5回あだち地場工業製品フェア」(足立区・足立区工業会連合会の主催)にめっき製品等を展示、めっき工業の重要性をPRした。

この展示会は、靴、鞆等の皮革製品、アクセサリなどの鍍金製品や印刷製品などの地場産業をはじめ、長い歴史と風土の中で生まれ、受継がれた伝統的工芸品やその他の優れた工業製品を一堂に集め展示会を開催しPRを行う。また、実際に使ってもらうことで、足立区の工業製品の優秀性への認識を深め、関心を高めていくために、来場者に対して展示された製品を低価で提供し、区内工業製品の普及促進を図ることを目的としている。

足立支部は足立区工業会連合会の構成

単位組合として毎年協力し参加している。今回は、めっき製品の展示の他に、めっきに対する理解を深めてもらうため、バレルめっきの実験装置、テレビ局が取材しためっき現場の映像などビデオで放映した。展示品では1)工業用クロムめっきのロール(ビデオテープ製作用)、2)環境に配慮した新しいめっきとして、亜鉛めっき3価黒色クロメートのビス、3価クロムめっきのプレート、ほう酸を使用しないクエン酸ニッケルめっき、3価有色クロメート、スズ・コバルト合金めっき、3)金銀めっきなど装飾用めっきとして、まつ毛カール器具、マグネットブレスレッド、髪止め、クロムめっき上に電着塗装した鉛筆の補助軸、4)鉄の錆びを防ぐ工業用亜鉛めっきのビス、ナット類、5)プラスチック上の装飾用クロムめっきの家電製品や二輪部品、ネームプレート等を展示し来場者の関心を集めていた。

来場者は、足立区の優秀な製品を袋いっぱい買い求めて大変な盛況であった。



## 東京都中小企業の景況(11月調査)

東京都産業労働局商工部

◎都内中小企業の業況 DI は前月比 4 ポイント減少し、3 ヶ月連続して悪化となり、回復にかげりが出た。前年同月比売上高 DI はわずかに悪化。仕入価格 DI は製造業のみ上昇傾向続く。また、今後 3 ヶ月の見通し DI は前月比 2 ポイント減と、景気回復への期待がやや後退し、慎重な見方となっている。

○10月の都内中小企業の業況 DI は▲38(前月▲34)と8月以降3ヶ月連続の減少となり、回復にかげりが見え始めている。製造業は▲28と前月比2ポイント減になり、やや悪化している。卸売業は▲39、小売業は▲63とともに前月比7ポイント減で、3ヶ月連続の悪化となった。サービス業のみ▲26で、前月比±0の横ばい。

○前年同月比の売上高 DI は▲34(前月▲32)と2ポイント減少し、わずかに悪化した。業種別には、製造業、サービス業がほぼ横ばい、卸売業は前月比3ポイント減、小売業は6ポイント減で、ともに悪化した。

○前月と比べた仕入価格 DI、販売価格 DI は、ともに1ポイントの増加となり、ほぼ横ばいで推移した。製造業の仕入価格 DI は、全業種区分で4ヶ月連続のプラスとなり、仕入価格の上昇傾向が続いている。製品商品在庫 DI は天候不順の影響から、小売業の「食料品」がマイナス(不足)に転じている。

○当月と比べた今後3ヶ月(11~1月)の業況見通し DI は▲20(前月▲18)と2ポイント減少し、回復への期待がやや後退した。製造業、卸売業は前月水準より悪化、小売業は横ばい。サービス業の「個人関連サービス」は前月比14ポイント増加し、明るさを増している。

### 編集後記

今年の日本は、台風、豪雨、地震等、自然災害が続いた。夏の連日の猛暑が続いたあと、相次ぐ台風上陸と集中豪雨、さらに新潟中越地震と各地で大きな被害をもたらした、自然災害の猛威を強く感じた1年であった。

景気は暮れまで全般的に回復基調が続いたといわれるが、気象状況によっても大きく業績を左右された業種が目立った。夏場の猛暑ではビールや清涼飲料の需要が急増しメーカー各社は大幅に売上を伸ばした。また、アテネ五輪と重なり、大型液晶テレビをはじめ家電製品、特にデジタル家電がいまも好調が続いている。一方、猛暑で売上を落とした業種が菓子業界である。特にチョコレートは暑さに弱く、大幅に売上を落とし、菓子全体としても不振に終わったという。そして暮れにかけて年末商戦だけ

なわの百貨店やスーパーは暖冬の影響で冬物衣料や暖房器具の売行きが悪く苦戦しているという。今年は異常気象にゆれた1年であったが、新しい年はどうなるのか、災害のない、景気にも影響を与えない穏やかな年となってほしいものである。

### 広報 12 月号

印刷 平成 16 年 12 月 15 日  
発行 平成 16 年 12 月 15 日  
(毎月 1 回 20 日発行 第 37 巻第 12 号)  
発行所 東京都鍍金工業組合  
〒113- 東京鍍金公害防止協同組合  
0034 東京都文京区湯島 1-11-10  
Tel 03(3814)5621 FAX03(3816)6166  
発行責任者 大村 功作  
編集責任者 木村 秀利  
印刷 スザキ企画 Te1047(338)1222  
〒272-0802 市川市柏井町 2-1419-4  
定 価 500 円